

昭和五十四年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議録第五号

館山市議 会



# 目次

日時	.....	一
場所	.....	一
出席議員	.....	一
欠席議員	.....	一
出席説明員	.....	一
出席事務局職員	.....	一
議事日程	.....	一
開議	.....	二
議案第一号ノ議案第七号	.....	二
辻田 実君の質疑、当局の応答	.....	二
渡辺軍治郎君の質疑、当局の応答	.....	一七
安西 益男君の質疑、当局の応答	.....	三四
石井 武敏君の質疑、当局の応答	.....	三七
石井 輝久君の質疑、当局の応答	.....	四四
予算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託	.....	五六
延会	.....	五七
本日の会議に付した事件	.....	五七

一、昭和五十四年三月十二日（月曜日）午前十時  
一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一番 吉田 勇治郎	二番 伊藤 幸太郎
四番 押元 稔	五番 黒川 平治
六番 鈴木 正義	七番 本間 昭二
八番 松下 正己	九番 鈴木 稔
一〇番 流山 源次郎	一番 近藤 好雄
一二番 栗原 一雄	一三番 林 豊
一四番 石井 輝久	一五番 辻田 実
一六番 安西 益男	一七番 石井 武敏
一八番 渡辺 軍治郎	一九番 渡辺 昭夫
二〇番 和田 一郎	二二番 五十嵐 昇
二三番 菊井 敏博	二四番 西村 真次
二五番 伊賀 多朗	二六番 藤田 益治
二七番 遠山 ヨネ子	二八番 石井 正
二九番 望月 照正	三〇番 山口 康
一、欠席議員 二名	
三番 穴戸 寿夫	二一番 田中 祿郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和五十四年三月十二日午前十時開議

議案第一号 昭和五十四年度館山市一般会計予算

議案第二号 昭和五十四年度館山市国民健康保険特別

会計予算

議案第三号 昭和五十四年度館山市と畜場特別会計予

算

議案第四号 昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計

予算

議案第五号 昭和五十四年度館山市ユースホステル特

別会計予算

議案第六号 昭和五十四年度館山市学童災害共済事業

特別会計予算

議案第七号 昭和五十四年度館山市水道事業特別会計

予算

## 日程第一

### 開

議 午前十時三十分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第一  
一回市議会定例会第五日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開  
きます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、議案第一号ないし議案第七号  
昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計予算を一括して議題  
といたします。

### 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） これより質疑に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一五番辻田 実君登壇願います。

（一五番議員辻田 実君登壇）

○一五番（辻田 実君） 一般会計並びに特別会計について七点に  
わたりまして御質問いたしたいと思ひます。

まず第一点は、一般会計予算一七ページ第三表債務負担行為に  
つきまして、館山三中学校舎新築工事につきまして、以下関連をい  
たしまして質問をいたしたいと思ひますので、よろしくお願ひを  
いたしたいと思ひます。

三中の校舎建築につきましては、すでに議案の方で提案されて  
討論がされたわけでございますけれども、ここに予算が二カ年  
にわたつて計上されておるわけでございしますけれども、この状  
況についてお伺ひしたいわけでございします。

一つは、今年度の予算におきまして三億二千八百三十九万一千  
円の予算が計上されておるわけでございしますけれども、ここで  
債務負担行為によりまして五十五年度支払うものとして四億五千  
四百八十八万円の債務負担がなされておるわけでございしますけれ  
ども、これにつきましてこの債務負担行為は本年度の予算三億二  
千八百万とどのような関係を持つのか、一括して入札されてそう  
して片方の債務負担として四億五千四百万というものが債務負担  
というものでなされておるのか、こころへんの関係についてこの  
ようなかつこうで債務負担行為がなされた状況について少し細か  
く説明をいただきたいと思います。

と同時に、この完成年度というんですか、完成をどの程度にみ

ておるかということについて、一応説明書によりますと、館山高校が八月に移転であるためにと、このように書いてございますので、一応この点についても少し詳しく説明をお願いいたしたいと思うわけでございます。

第二番目に、九四ページ三款三項一目の十五節青年館建設工事請負でございます。この青年館請負工事につきましては出野尾の青年館と、こういうことでございますけれども、この青年館につきましましては、説明によりますと、青少年の話し合いの場として、そしてコミュニティ活動の拠点としてつくられる。こういうことでございますので、この点については非常に結構なことでありかと思うわけでございます。

施政方針演説の中におきまして、この出野尾の青年館につきましては、処理場の建設に伴います地元に対するところの協力的な補助というようになつておるようでございますけれども、ここでもつて私はまず第一点に質問したいことは、この土地の提供については十分確保されておるのかどうかということが第一点。

それから、第二点については、建設の見込みについて十分なのかどうか。これにつきましては、一般の場合には予算は県の方の予算がついてから一般財源の予算をつけるということでございますけれども、こういう点について予算計上当初予算にするからには、県の方の青年館建設についての内金というんですか、そういうものについてはすでに確定されておるのかどうか、この点については二点目としてお伺いしたいわけです。

三点目としては、いままでは青年館については相当数建つており

ますけれども、全部地元負担ということであつたわけでございますけれども、今回の場合には処理場との関係がございますので、地元負担がないようでございまして、これは結構なことでございますけれども、これはそういう関係においてこの青年館のみを例外的に処置するということであるのか。今後こうしたケースについては地元負担なしという一つの原則にしていくなか、この点についてひとつ明確にしていだきたい。青年館に關連いたしまして、三点を質問いたす次第でございます。

次に、一二ページ四款十五節について御質問を申し上げたいと思うわけでございます。ここに衛生センター建設工事請負費が提案されておるわけでございます。同時にこの議案説明書といたしまして議案の説明資料の一〇ページに処理施設としてエスジェットエアレーション方式によると、こういうことでもつて説明がなされておるわけでございます。私はし尿処理施設についてようやく建設されるということについては歓迎するところでございます。

そこで、私は質問をいたしたいのは、エスジェットエアレーション方式というものの機種のメーカーについてはアタカ建設が初めて開発し、そうしてまだ一、二のテスト的なプラントがあるだけだということを聞いておるわけでございます。

先般、その最も代表的な一つの施設として青森県の施設があつたわけでございますけれども、あその場合には確かにアタカ工業のエス方式によるものの処理施設ではございますけれども、しかしながらその施設はかなりほかの施設にエス方式を加えたという形の中の変則性をもつておるわけでございます。

さらに、白石市におきますところの処理施設があつて、まだそのほかには十分のものが無い、こういうことを聞いておるわけでございますけれども、こうなりますと、いまここに予算提案されておりますところの工場ジェットエアレーション方式という機種については、アタカ工業以外にこの方式の建設メーカーがあるのかどうなのか、この点について私はお伺いしたいわけでございます。

今日、こうしたところの事業、工事に対するところの入札方法としては競争入札方式がなされておるわけでございます。この一社によるところのアタカ工業と話し合いを進め、そうしてその中においてアタカ建設の施設を作つて行くということであるならばもう少し事前に議会等の了承を得てから行ひべきではないか。

これであれば、アタカ工業について私はどういふ会社かわかりませんが、しかしながらこの企業が自分のところの製品の売り込みに対する宣伝というものは異常なものがあります。悪いものではないでしょうけれども、普通のものであつてもこれは特別すぐれていると、日本では他に例がありませんとか、世界的にこれが最もすぐれているというようなことで売り込むわけでございますするけれども、実際にそうしたところの商品が本当に世界一であるか、日本一であるかということについては、一般商業的な取引の中においては疑わしい面があるわけでございます。

この種のし尿処理施設はアタカ工業以外に多くのメーカーがありまして、それらのメーカーが果してどちらが館山の場合にいいか、悪いかという判断これは当然なされるべきではないかと思ひわけでございますけれども、この点についてはもうアタカ工業の

言ひなりというんですか、それを全面的にうのみにして、そうして建設の予定を進め、さらには一挙に予算提案まで持ち込まれてきておると、このこと自身の経過これについてかなり私は地方自治体としての工事方法に対するところの経過として異例な状況じやないかというふうに思われるわけでございます。

こうした形は、従来であれば、いまロッキードとか、グラマンの問題いろいろありますけれども、そうしたケースに同じような状況になる。そこでもつてロッキードとか、グラマンの場合にはそこに企業リベートというような形で政治献金云々という、流れたというようなことがありますけれども、この種の問題についてはそういうことはあり得ないと思ひますけれども、しかし一社と提携をしなから、そういうものがなくても、そのものをもつ一つの既定方針として事業を進めて行くということについては、今日の方法としてはいい形ではない。

それは、市長はこれはいいと思つても、しかしながら三中をつくるにしても、どこにつくるにしても、いいところということではなくて、多くのやつぱり競争入札の中でやるべきなのが今日の状況でありますから、そういう面においてはあまりにも工場方式という形の中で固守して、そうしてほかのそうしたところの競争入札そういうものについてはほとんど排除するような形じやないかというふうに見られるわけでございますけれども、この点について私はもうちよつと予算設定までにおいて、この方式を採用するということについて議会等の了承というんですか、協議を得た上で予算化すべきじやないかと。これでは会社を指定して予算化するというような形でございますから、ちよつと問題が残るんじ

やないかというふうに思うわけでございまして、この点についてひとつ御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

それから、一三三ページの七款一項三目十五節観光案内所建設工事につきましてお尋ねしたいと思うわけでございます。

館山の駅前の観光案内所を新しく建てかえるということでございます。木造二階建ての延べ六十八平米ですか、もののだというところでございますので、この点については結構なことだと思っておりますけれども、今度建設が予定されるころは、日東交通の案内所のところ、こういうことが説明されておりましたわけでございまするけれども、その場所の土地はこの土地に属するものなのか、この点をお伺いしたいと思うわけでございます。

と同時に、施政方針の中でもつて、通告質問で若干いたしましたけれども、答弁が不十分であつたわけでございまするけれども、駅の改築についての計画というんですか、こういうものについてはどのように考えておるのか、それについての協議がなされたのかどうか。

私は、ここでもつてこの観光施設をつくるのは結構なんですけれども、駅が先般質問しましたように、もう老朽化しておりまして、四、五年前から改築するという話が出ておりまして、本間市長の時代には具体的にこの壇上から、館山駅の改修云々について行いべきだというようなことでもつて、示唆をされておることが答弁されておるわけでございまして、それからもうかなりの年数がたつておりまして、いまだに着工をみておらないわけでございますけれども、駅の改修についてはそう遠くない問題だろうと思つてでございます。

そうなりますると、駅の場所によつては、観光案内所をせつかく建ててもまたそれを移動しなければならないと、こういう事態になつてきますると非常にむだというんですか、計画性がなくなるような感じがいたしました。そこらへんの計画は十分立てられた上なのかどうか。国鉄当局との話し合いの経過とか、そういうものについてはどのようになつておるのか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

次に、一五三ページ十款一項三目十八節放送センターの備品購入費でございます。この備品購入費につきましては、説明資料の中に有線テレビ放送を中止して、教材をビデオ化して学校、公民館に搬送すると、こういうようなことでもつて小、中学校のテレビを購入したいというようなことで一千六百万円、こういうことになつておるわけでございますけれども、このテレビの購入台数は何台ぐらいになるのか。この台数を教えていただきたい。

それから、現在有線テレビによつて放送されておりますところのテレビ、この台数はどのくらいなのか。その台数をそのままそつくりカラーテレビにかえると、こういうことになるのかどうか。この点について教えていただきたいと思つてます。

それと同時に、有線テレビ放送については当初からこれはなかなか困難性があるだろうと、維持費もかかるし、有線テレビ放送によるところの教育効果というものは、まだいまの段階では十分発揮されないんじゃないかと、こういうことでもつて私は再三前の教育長等に質問をしてまいりましたわけでございまするけれども、その都度非常に教育の機会均等、そして教育の質的な向上こういうような面から見て画期的なものだということでもつて、

非常に自信を持たれた答弁がされてきたわけでございます。これはその後有線テレビ放送は相当の費用がかかつてやつておるけれども、どうなのかということについてその後も何回か予算の編成並びに一般行政質問の中で質問してきたわけでございますけれども、非常に利用度も高くその効果は抜群だ、こういう形が繰り返して繰り返して答弁されてきておるわけでございます。

今回、はからずも有線テレビの放送を中止すると、こういうことになったわけでございますけれども、これではなんかいままで非常に教育の機会均等、教育の質的な向上をするのもつて優秀な成果を上げてきておるんだということが盛んに答弁されておりながら、そういう優秀なものをここでやめなければならぬということは、私はよほどの事情があつたんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、このよほどの事情はどういうことだったのか。いままでの教育委員会が私どもに答弁されてきた内容とあまりにも隔たりがありますので、この事情を少し説明していただきたいというふうに思うわけでございます。

次に、一六三ページ十款三項三目十三節について御質問を申し上げます。

これは西岬中学校の防音校舎の改築に対するところの予算でございます。鉄筋コンクリート三階建て二、一二二平米ということでございますので、西岬中学の建設については、私は昨日も西岬中学を二とおりくまなく見てまいつたわけでございますけれども、兵舎を改修した建て方でもつて、教育環境としては非常に見るに忍びない状況にあることにつきましては、よく了解はできたわけでございます。したがしまして、西岬中学校の建設ということとは

非常に緊急を要するというふうに判断したわけでございます。この点については建設について非常に私は結構なことであろうかと思ひまして、早急に建設することを望みたいと思うわけでございます。

そこで、私は二、三疑問点がございしますので、その点について質問したいと思うわけでございます。

さきの議案の中において中学校の統合案が提案されておるわけでございます。その中学校の統合案によりますと、四校案ということになりました。西岬中学は館山第二中学の中に合併されるということになっておりますので、これは近い将来には西岬中学はなくなるんじゃないか、二中に統合されるんじゃないか。

このことは、広報館山の二月号の中に細かく、西岬中学は二中に合併されますと、こういうことが書かれております。二年ぐらい先ですかに合併すると、こういうことが出ている。

そこでもつて、合併との関係において建築が終ると同時に一年そこそこでもつてもうすでに合併して廃校になる学校を、いま国庫支出金一億六千五百四十万円というものがあるからといって、一般財源が六千八百万、さらには地方債四千九百五十万という金を出して、一年しか使わない学校をこどもつてつくる必要があるのかどうかということでございます。この点については私は非常に矛盾している。一般常識では考えられないんですけれども、この点についてはどのように考えておるのかということが第一点。第二点目は、西岬中学は考えようによつては現在の敷地はかなり余裕があるように見えますけれども、しかしながら本年度この建物を建設するとなると、どここの場所に建てるとか。建設過程に



おいて校舎の一部を壊すなりなんかしないと、ちよつと建てられないんじゃないかという感じがしたわけでございます。校庭をつぶすとか云々ということでもつて相当教育上不便を来して行われないと、建てる場所が西岬中学の敷地の中に建てるということになるとかなり無理がある。

この一年間、建設過程においては相当授業について影響、場合によるとプレハブで建てるなり、ほかに移動しなくてはならないんじゃないか、移動しなくても講堂に移すとか、そういう形でやらなければ無理ではないかという気がします。

さもなければ、校庭のところにつくつてしまつて、校庭を使わないという形の中で授業を優先するという、こういうことになるか、どちらかでないとかよつと建設についてかなり無理があるように見えるわけでございますけれども、この建設についての過程の中でもつてそうした授業の処置をどのようになされていくのか、この点について御説明をいただきたいと思うわけでございます。

以上、二点について西岬中学については質問を申し上げまして再度再質問をしていきたいと思います。

次に、特別会計の国民健康保険会計でございしますけれども、二一〇ページでございます。保険給付費でございしますけれども、本年度は昨年度予算よりも非常に増額されておりまして、三億六千五百十萬円の増になつておるわけでございます。

したがいまして、国民健康保険会計は、この保険給付費の値上りによりまして、今年度の予算につきましては大幅な保険税の値上げになつておるわけでございます。その保険税の値上げが同じくこの予算案の中に二〇三ページに計上されておるわけでござい

まして、一億八千九百萬円というのが値上げになるわけでございます。これは昨年に比べると大幅の値上げであるわけでございます。

この保険給付費について、その内容が議案書の中に添付されております。この内容を見ますと、確かに療養費の算出等からいきますと、被保険者の数とか、それから療養費の実数とか、そういうものを計算していきますと、確かにこのような数字になるわけでございますけれども、この点について毎年このように大幅な値上げをしなければならぬというふうになつておるようでございますけれども、この点についてはもう少し改善の余地がないのかどうか。

昨年の実績から今年の実績について、この資料でもつて医療費の値上り、その他からいつて、これだけアップになるんだということでございますけれども、それにしてはあまりにも上昇率が高過ぎるので、もう少しこの点について結論的に保険給付費の内容について、どうしてこんなに大幅に上らなければいけないんだということについてわかりやすく説明をいただきたいというふうに思うわけでございます。

以上の点について御質問申し上げますので、よろしく御答弁をお願いいたします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、三中建設の債務負担行為についてでございますが、三中の工事費が七億三千三百万円程度を予定しているわけでございますけれども、県の教育庁と打ち合わせをいたしました結果、

文部省としては単年度事業としての補助金は無理である。したがって五十四年度、五十五年度の二カ年でやつてもらいたいということでございます。五十四年度はその総額工事費の四〇%、五十五年度は六〇%及び監理料を計上すると、そういうことになつたわけでございます。これはいずれも国の指導によるものでございます。これは一括入札をいたすわけでございまして、完成はなるべく早く、五十五年度なるべく早い機会につくるようにしたい。統合との関係がございしますので、なるべく早くしたいというふうに考えているわけでございます。

次に、青年館の建設でございますが、これは御指摘のように、し尿処理場建設に伴いまして、地元から大変御協力いただきまして、ので、地元の御要望にこたえて建設するものでございまして、土地については現在集会所がございしますが、その土地に建ててもらいたいという希望でございます。そういう意味で、土地の確保はできているわけでございます。

それから、県との連絡でございますが、これは十分県の了解を得ているわけでございます。

それから、今回は地元の負担なしで建てるわけでございますが、これは一般的には現在は千葉県の青年館設置事業補助金交付要綱というのがございまして、それによりまして県の補助金が八十五万円、市が八十五万円、残りは地元で出すと、そういう形になつてゐるわけでございますが、今回につきましては全額と申しますが、地元負担分を市で負担すると、そういうことでございしますが、これは特例でございまして、今後はやはり県の補助金交付要綱に従つて建設をするつもりであります。

次に、衛生センターの建設工事費についての問題でございますが、E方式というのはアタカ工業の特許を持つてゐる施設でございます。これは単にテストプラントの段階をすでに過ぎておりまして、各地で実用化されているわけでございますし、厚生省の認可も得ているわけでございます。

このプラントを選ぶにつきましては、担当課の中で十分検討いたしましたし、また庁内に機種選定委員会を設けまして、新処理技術の四社を呼びましてそれぞれその優劣、長所、短所を検討し、さらにどの機種が館山の現状に最も合っているかどうか、そういうものを検討いたしました。清掃審の答申も得ているわけでございます。そしてその審議の過程の中で、たびたび金協等では御報告を申し上げてきたわけでございます。

その価額の点につきましても、これは新処理技術の四社を呼びまして、それぞれ見積りを出させましたけれども、E方式が一番安かつたわけでございます。

こうした機種の選定につきまして、学校建築などと違いましていろいろの条件もございしますので、必ずしも競争入札には適しないものではないかというふうに考えているわけでございます。

観光案内所の件の御質問でございますが、この土地は七十七・五二平方メートルでございますが、そのうち国鉄の所有地が十二平方メートル、残りが市有地でございます。

駅の改築との関連の御質問がございましたけれども、これはこの案内所建設に関連をいたしまして、千葉鉄道管理局に問い合わせました結果、現在のところ改築する計画はないということでございます。そういうことでございます。

それから、放送センター及び西岬中学の建設の問題につきましては、教育長の方から御答弁を申し上げます。

保険給付費が年々増大していくんじゃないかと、特に五十四年度は五十三年度に比べて大幅の増ではないかということでございますが、国保会計の中で保険給付費の占める割合は九六・二％でございます。大部分が給付費として支出されるわけでございますが、医療技術あるいは新しい薬そういつたものがどんどん開発されました、非常に技術が進歩しているわけでございますので、必然的にやはり医療費が高くなつて行く。そういうことでございます。

ある意味では、住民にとっては幸せなことではないかと思うわけでございますが、この伸びて行きます理由の一つにやはり被保険者のお医者さんのかかり方といったような問題、そういつたことも問題があるわけでございますが、そういつた点については従来ともやつてまいりましたけれども、今後とも市民の指導と、また市民の御協力を得て極力医療費の高騰、支出の増を防ぐように努力をしていきたいと考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○教育長(安田豊作君) 一五三ページ十款一項三目十八節の放送センター備品購入費のことについて申し上げます。

現在、白黒テレビが学校の教室、小中学校、幼稚園、それから公民館に、学級数の移動がありますけれども、三百三十台あります。そのテレビのうち来年度お願いしてある千六百九万五千円で小学校分として七十八台、小学校の四年、五年、六年ちょうど半分の教室になります。中学校三十三台、中学校七校の特別教室全

教室のつもりであります。それを購入する計画を立てております。

それから、いままで教育の機会均等あるいは教育の質的向上のために非常に効果のある放送センターということでやつていたのを急に中止する、それには何か事情があつたんじゃないか。こういうことでございますが、説明書にも書いてありますけれども、第一の事情は、この三百三十台の白黒テレビでございますけれども、その約半分近いテレビが故障といえますか、はつきり写らなくなつてきている。しませんがあらわれましてはつきり写らなくなつてきたと。

それから、もう一つは、いま家庭テレビがもう完全にといつていいぐらいカラー化しております。そういう意味で、子供あるいは公民館では大人の人も見るんですが、魅力がなくなつて視聴率といえますか、見てもはつきり写らない。あるいは見ても白黒で興味が無いというよりなことで、当初考えておつたといえますか、いままでよりはここにきて視聴率がやや下降ぎみになつてきたという事。

このまま行くならば、五十四年度で修理費を組むかという段階にきまして、それならばカラー化する方がいだろうと、それと視聴率の点からも投資効果といえますか、予算に対しての視聴率から見ても有線を切るによつてその代償といえますか、それと大体同額ぐらいのカラーを買つて行けば、小学校で言えば大体半分買える、こういふふうに見通しから有線を切るということとで備品をお願いしようということでございます。

それから、一六三ページ十款三項三目十三節及び十五節にお願いしております西岬中学校防音改築工事費でございますけれども、

西岬中学は御指摘のように一部旧兵舎もありまして、建設の緊急度は非常に高いわけでございます。

それともう一つは、防音適といえますか、防音の対象としての位置的には西岬中学の方向が飛び立つ方向になるわけですか、そういう関係で西岬地区というのは防音の必要度からは防衛施設庁の方の考え方は大事な地域だ。こういう考え方もありまして、そういうことで一年しか使わない、中学校統合案を見ても、西岬中は二中に統合することになっているじゃないかと。そのとおり、そういう考え方をしておるわけで、地域の大体の了解も得ておるわけでございますが、したがって使用は五十六年度までというたと二カ年後ということになります。そうすると、本年度建築しますから、使用は一年ということになると思えますけれども、五十一年から申請して防音校舎の認定を受けて、突は五十三年度から建築を始める予定で予算もお願ひしておたわけでございますが、防衛庁の都合で一年延びて五十四年度に全面的に改築する。こういう了解を得ております。したがってその計画につて計画を進めたい。こういう計画でございます。

一年しか使わないでもつたないではないかということでございますが、あとは小学校校舎として使っていきたい。こういう考え方でございます。西岬は東小も西小も老朽といえますか、状態であるわけでございまして、いつていまのところはすぐ建てるということにつきましては、敷地が非常に狭いわけで、建築に非常にもむずかしいという問題もありまして、西岬中へ小学校を移したいという計画を持っているわけでございます。

それから、一年しか使わない西岬中学を建てるのに五十四年度

教育上不便を来さないかと、確かにいまのままでいるよりも工事を起こしますから、いろいろ使用の不便も出るかと思えますけれども、建築の場所は山側といえますか、大体プールと並んで左の方に一本で三階立てというところでございますので、一部の校舎は取り壊します。二教室ぐらい壊すかもしれませんが、これは学校側と打ち合わせをしまして、学校としては教育にもそう差し支えない。運営ができる。こういう了解のもとにそういう計画を持つております。以上。

○一五番（辻田 実君） まず第一点の三中建設でございするけれども、二年度にわたるということで、補助金の関係でこうなつたと、こういうことでございするけれども、さきの議案等々からいきますと、一年度で落成したものについて一部北条小学校校区の生徒を入れて、そうして北条校舎としてスタートすると、さらにその次の五十五年で完成して五十六年四月には山本校舎の四中からも入れる。こういう二段方式になつておるわけでございます。するけれども、ということになれば、一括でなくても年度年度独立させていつて、債務負担行為をしてまでもつて一括契約をしなくてはならないという事情は出てきてないんじゃないかと、この債務負担行為をすれば利息、その他もあるわけでございするけれども、業者が払う、どつちが払うは別といたしまして、それだけ工事費の中に含まれてくるわけでございます。これは一括でなくても単年度単年度でもつていままでもやってきておるわけでございますけれども、ここでもつて単年度単年度でやつても支障がないんじゃないかというふうに思うわけでございするけれども、ここで債務負担行為をして一括しなければならぬと

いう事情はちよつと理解できないわけでございますけれども、この点についてどうなのか。

一括でもつてやつて、一挙につくり上げていくと、こういうこととあれば、議案の中でもつて山本校舎と北条校舎と二つの校舎をつくる必要はないんじゃないか、こう思うわけですよ。

この二つつくるということは、一部入った後から入ると、二段構えになるというふうに理解されるわけでございますけれども、そういうふうに二段構えにならないかというふうに思うわけでございます。それだったら、一括制の意味はどういう意味なのか、その点理解に苦しむわけでございますので、その点についてまず再質問したいわけでございます。

もう一つは、北条校舎と山本校舎というものが建てられるわけでございますから、ここでもつて来年からはそういう形式統合になるようにございますけれども、その場合に校長は二人存在するのかどうか。三中の山本校舎校長なり、北条校舎校長なりという形でもつて、そういうのはどうなるのか。そういう人事管理の問題が一つと。

それから、教員等についてこれは一本化でもつて処理されるのかどうかということ、配置ですね。非常に教員の適正配置ということでございますけれども、二つに分れた場合には適正配置ができないんじゃないかというふうに思われるわけですが、北条校舎、山本校舎の場合には教科の適正配置は考えられるのかどうか。

第三点には、いまクラブ活動ということが非常に活発であり、中学生生活の花だということが言われております。私も中学三年生

子供に持つておりますが、今度卒業記念論文を書く中で中学生生活の思い出は何かというところ、勉強よりもいろいろスポーツ活動に参加して、いろいろの友情を築いたとか、青春を謳歌したというのが大部分の生徒の喜びとされておるわけでございます。

いまの小中体連なり、クラブ活動の特にスポーツ活動についての行事でございますけれども、学校単位の対抗試合になつておるわけでございますけれども、この場合、来年から山本校舎いまの四中ですね、四中の野球部なり、バスケット部なり、ソフト部というのは非常に強いんですけれども、これは二中の方から行く北条校舎の部とどういうふうになるのか。そういう館山市の大会、県の総合体育大会というものに参加するのは三中山本校舎学校というのと、北条学校というもので二つが参加できるのかどうか。どつちが一本にしほらないと参加できないというふうにかつこうになるのかどうか。

子供たちのクラブ活動に参加している人は、そういう対抗試合に参加できないというものはものすごい制裁であるわけでございます。習志野高校が暴力事件を起こして一年間高校野球の試合に出場停止ということば、学校をあげて悲しみにふけていたということがあるわけでございますから、こういう点についてはどうなるのか。

こういうものを解消するのに、私はここで債務負担行為をやつて、同時に入校という形がとれたんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、そういう手もなさそうです。議案の方では別々、予算の方では一括と、この点について理解ができませんので、これについて詳しくお願いしたいと思います。

青年館の問題については結構だと思っています。

それから、衛生センターの建設についてはわかりますけれども、しかしながら学校なんかとは違うといつても、われわれ議会から見れば手続は工事の設置、まして九千万以上の事業費については議会の了承を得るということについては、これは同じであるわけでございますけれども、もう会社名を特定するような形でもつて予算が計上されてくるというのは、まず私はいままで十何年間議席におりましたんですけれども、初めてじゃないかということでもつていま拾つてみても、議案書の中にエス云々ということが出てきておるわけでございますけれども、ちよつと異常じゃないかというふうに思うわけでございます。

確かに、プロジェクトをつくつた。清掃審議会云々ということはありませんけれども、それは附属機関なら附属機関として、議会がやはり決定権限があるわけでございますけれども、そこでやつたからということでもつて、いきなり説明書の中にエスでやりますから、この機種が幾らだという形についてはちよつと横暴というんですか、感が受けられるわけでございます。

確かに、いまの市長の立場では与党多数でございますから、それでも通るかもわかりませんけれども、市長でもかわつてこういうのが前例でやられてきたら、半沢市長なら間違いないけれども、こういうのが間違いを起こすケースになるんだということでもつて他の市町村なり、全国的市町村ではこういうものを禁止して、やはり予算は予算、そうして予算を計上した上でもつて、今度この段階でもつて建設について明確にされて、そうしてこれについて改めてどういう機種を選ぶかということがいろいろ手続的

に行われていくべきであらうかと思うんですが、今回の場合には市長部局でもつてやつてしまつて、議会には事後承認という形で予算までに業者まで決定されてほんと出てくるということ、これではちよつといまの議会制民主主義に逆行するんじゃないかと思うけれども、ケースバイケースは結構でございますけれども、市議会と執行機関とのけじめについては、私はきちんとしてもらいたいし、特殊だということでは私は了解できないわけでございまして、これについてはいかに所感を持つておるかということについてお尋ねします。

それから、観光案内所の件でございしますが、これについては国鉄の方もいま移転のあれはない。こういうことでございすけれども、これは商工会議所等についてはもう消えてしまつたかもしれないけれども、五、六年前までには駅前をあれしようということとで、駅改造の委員会等を設置されました、当時の館山市長は館山駅を早急に建てかえなければならぬということと非常に意欲を持つておつたんです。青写真のなものでつくられておつたように見受けられるわけでございます。

これにつきましては、私は当時館山自動車区の設定について、当時の君塚議員等とともに駅の改修について市の計画ができないから、ここにつくつていいかどうか非常に迷つたということとで相談のつたことがございます。それはもう十年も前でございます。

四、五年前には、いまの機関区の建物を鉄筋でもつて三階建てに建てるについて、館山市の都市計画の中で駅の位置をどうするかということについて聞いてもらいたいということとで、当時私は質問してやつたんですが、駅の改修について鋭意努力した

いと、こういう答弁がなされておつて、位置の決定については十分検討して云々と、当時国鉄の管理局の方からまいりましていろいろと実情視察もしましたので、近いうちに結論を出したいと思ひます。こういうことが言われたのがすでに五年も前です。いま聞くと国鉄には予定がありませんでよいということでございますけれども、市長自身がそうした館山市が市民の要望に基づいて、前の市長等が駅改修についてやつていきたいと、それに伴う再開発をしていきたい。こういうことでもつて非常に積極的に行われておつたんですけれども、市長自身はそういうものはいまはないのか。よそ事のように駅の方にはないそれでございまして、こういうことでございすけれども、この点についてはいふん後退というんですか、そういう面についての意欲がなくなつたように思われるんですけれども、市自身としてはどうか。その点について変わったのかどうか。

十数年の懸案としてやつてきたものが、そのための補助金も出てあるわけですよ。期成会に対する云々ということで、そういうものがいまの答弁は全く白紙に戻つたようですけれども、駅の建物は本造ですから年々悪くなつてゐるはずでございしますから、それについて市長自身の計画性はどうか。

それから放送センターでございしますけれども、いまの説明でございしますと、カラーにすることと、それから経費の面ということでもつて切ることだつたんですけれども、このことについては最初から指摘されておつたわけでございします。

カラーはいま時分見る人はいないはずだということでやられてカラーテレビでなくても白黒テレビにしても、端末機については

当時の議事録を見ればわかりますように、大体耐久年度は大体八年前後だということが言われて、七・八年たてば機械そのものはかえなければならぬということとはわかつておつたわけでございしますから、そういう意味においてはいまさらこれを交えなければならぬということはないはずであるし、当時私がこの設置について質問したのは、むしろ有線ということと莫大な費用を使うんだつたら、カラーにしても単価的にそんなにかわらないんだけれども、倍ぐらいの違いなんだからこれを設置した方が非常に有益ではないかということをつたら、いやそういうものにかえられない有線の質疑応答というんですか、行つたり来つたりの応答をやつて非常に有益だと。

当時、教育長は校長の研修会だとか、校長会、教頭会ということでもつて市役所に引つ張り出さなくても、有線放送なら一定してやつて向こうから答弁も聞けるということでもつて、そういうロスがなくなつて教育効果は上るだろう。有線でなければだめなんだということ強調されたわけですよ。

いまやるようにカラーの方がいいだろうということは、すでに十年前に私も指摘したわけですよ設置のときに。有線の経費を使うのだつたら、カラーテレビにしておつりが来ますということをつたら、よほどその方がいいんじゃないかということと言つたら、いやそれでいいんだということできたわけですよ。

いま、教育長の答弁は、私が当時質問した設置についてそういう疑念は起きてきませんか、むだ使いになりませんかと言つたときに、カラーにした方がいろんな面からいつてもいいんじゃないか。予算的にはケーブルの予算をやればおつりがきちやうじやな



いか、年々払うお金でおつりがくるんじゃないか。その方が効果的ではないかと、いやそうではありまじんとこういつたわけでございませう。教育長が答弁されたことを私が十年前に設置のときに質問したことなんです。それではだめだと、有線テレビがもつとえらい効果があるんだということを言われておつた。

それが、十年たつたら、いまになつて終つて同じことを答弁されたんでは、私の方ではどういうことで私が当時質疑討論したのかということについてわからないし、なんかいままでのものがむだであつたような氣もするし、その点について事情をもうちよつと、そうでない事情が、もつと重大なものがあつたはずですからその点について教えていただきたい。

それから、西岬中学校のことでございませうけれども、多少の影響があるということとございませうけれども、多少ではないと思ひます。やる側というのは校舎の入りに口ではありまじから、校舎の奥になりますから、あそこは資材とか、機具を運ぶのは前の方の運動場なりによほどの道路をつけて持つて行かなければならないし、あそこは奥側といへども校舎は二教室なんか特殊教室等がありますから、そこを壊すというところでいま言われまじたので見当がつきました。あの校舎は古い建物でもつて兵舎ではありまじけれども、あそこに建てるとすればすぐ前に兵舎の建物の教室が四つぐらゐるはずで、とても一年間あそこでもつて工事をがちやがちやつてる中で教育の支障にならないなんて、一年待つてもらへば北条小学校校区は三中に移ちやうわけですから、館山二十教室余つちやうわけですから西岬を入れてもあそこに来れば支障がない。そうして来年度北条小が向こうに行

つて、三中に移転した場合に西岬来れば防音のあれもないし、騒音公害に悩まされないうし、悠々と勉強ができるんじゃないかと思はれるわけでございませうけれども、どうしてそういうことをしないのか。

防音の補助云々ということとございませうけれども、昭和五十一年から指定を受けておるといふことであれば、三中の問題については必ずしも当局と意見を一致しておりまじから、三中をつくつて統合計画を鋭意努力してきたら、昭和五十一年にはもう西岬中学がだめになるといふことはわかつていたはずで、その頃から西岬中学を防音校舎でつくりますとえらい運動して、当時交際費やなんかについても防衛庁にいろんな贈りものをしながら手みやげを持つて行つたといふことでいろんな質問なんか出て、これはおかしいんじゃないかといふところまでやつて、一生懸命にえらい人たちは時間をむだにして防衛庁には陳情したりしてやつてきてゐるわけですよ。

統合計画というものがびしつと検討されておれば、西岬中学をなにもそこでもつてやらなくても、東小の防音設置でやれば済むわけでございまして、これはやはり教育の問題でもつて、中学の建設でもつて建てる校舎を、最初から西岬の東小と西小を合併して建てるんだつたら、最初から建てれば一年間そういうものを使わなくても、小学校に向いた理想的な学校がきちんと設計の段階から建てられるんじゃないか。西岬の生徒がいないう中ですから、取つばらつちやつてどのように自由な位置でもつて建てられるんじゃないか、理想的な校舎が建てられるんじゃないか、それがどうしてできないのか。



これは行き当たりばつたりのものでもつて、私も市会議員の末席を汚しておつて、市会議員はそんなことがわからないのかと、市役所で何をやつてゐるのかと、市長そういうた建設するといふけれども、市会議員がチェックするのはよくあたりまえのことではないかと、この点についてはそういうことはできないのかどうか。

なにも、西岬中学をつくつて一年入つて、そのためにあとで小学校に入れさせると、小学校だつて防音校舎でできるわけですから、補助についても同じなわけですから、最初から話し合ひがついておるといふことだつたら、教育的な理想を追つて、やはり西岬は統合するんだつたら統合するについて、一年ですから、騒音公害に悩まされずに二中の方に入つてもらつて、空いてるんだつたら、そして西岬の跡地に小学校を二つ統合して建てるんだつたらちゃんと小学校用に話し合ひの上で建てるべきだ。それがやはりごく一般的であるし、教育の理想だといふふうに思われるんですが、それがどうしてできないのか。

中学校でやりました。すぐ廃校になりました云々ということでもつて、こういう予算の仕方では、われわれ議員としてもそういうものについて何も言えないのか云々ということについて責任を持てませんので、その点についてはどうなのかについて質問いたします。

以上について、よろしく願ひいたします。

○市長（半沢良一君） 機種選定につきましては、厚生省に申請する段階で機種が決定しておらないと都合が悪いわけでございます。そういう機種によつて補助金の額が決まってくる。そういうことでございます。

そうしたこともございますので、先ほど御説明申し上げましたような経過をたどりまして、選定委員会をつくつて慎重に検討し、さらに清掃審の答申もよろしいという答申をいただいているわけでございます。その決定についての手落ちはなかったように思いますし、それからまた議会の方に対しましては全協等で御説明申し上げましたので、御了解を得たものといふふうな考え方で進めてきたわけでございます。

それから、駅舎の改築につきましては、御指摘のように私もその必要性は十分考へておりますけれども、単に駅舎だけではなくて、駅前の商店街特に西口開設等も考へまして、総合的にこれを開発しなければならぬ。都市再開発ということとで五十四年度の四月以降プロジェクトチームを発足させますので、その中で考へていきたいといふふうに考へております。

○教育長（安田豊作君） 債務負担行為のところでは三中の建て方について条例で示しているのと予算で示しているのと違ひがあるか、こういう御指摘だと思います。

条例でお願いしているのは、五十五年四月から三中を設置するというところでございます。その時点で三中には北条校舎と山本校舎を使用するといふようにお願いしているわけですが、これは条例でお願いしているのは三中建設のための補助金を得るため、文部省の指導によるものでございまして、この条例を設置することによつて五十五年に校舎は建てるんですけれども、五十五年から三中は発足するんですけれども、五十四年から、この条例制定時点からすぐ建築にかかつていいと、補助金を交付すると、こういうためのものと、こういうふうにお考へいただきたいと思います。

います。

債務負担行為でお願いしているのは、地区の要望から北条の子供、四中の子供といいますが、生徒といいますが、館野、九重でもできるならば同時に入れるようにしてもらいたい。こういう要望が非常に強いわけです。条例どおりですと五十五年四月に北条校舎に北条の子供が入って、館野、九重の子供は四中に一年入ってあるという条例の文面からはとれるわけでございますけれども、債務負担でお願いして入札を一括して入札を終えて、工事にかかると、工事次第では五十五年四月当初にほとんど完成にいかせろを見通しがあります。

したがって、形式的には五十五年四月から北条校舎、山本校舎ということで条例をお願いしますけれども、実質的には五十五年四月当初に山本校舎を使わないで、北条校舎に全面的に入れるような努力をしたい。あくまでも努力でございまして、完全にできるといふことはここで言い切れません。また条例としては北条校舎、山本校舎をお願いしておく方がより安全だということをお願いしておるわけでございます。

それから、仮りに北条校舎、山本校舎ということがあつたとしても、クラブ活動、その他の学校対抗、その他の問題については小中体連という団体の申し合わせでございしますので、校舎別の出場もできるじゃないかと思えます。また両方を編成した学校単位の出場というよりなことも可能だと思えますが、これは小中体連の役員会その他でそういう時点になつたら論議していただくことにならうかと思えます。

それから、校長や教員の問題はどうなるか、こういうことで

ございますが、五十五年四月要するに来年度ではなくて再来年度から校長は一人です。それから教員は校舎が分れておればほとんどそのままになると思えます。校舎が分れないで実質統合の場合は約八割の教員、二割の方は教員がよけいといえますか、余る。こういう形になると思えます。

それから、放送センターの問題で、この問題について十年前の見通しが甘かつたんではないか、この点が甘あつたと言えはそうだつたと思えます。辻田議員さんは十年前にもうカラーの方がいいんだというお考え、私も直接担当はしておりませんでしたが、けれども、当時としては学校の方針は全教室に白黒でもテレビが全教室にあるということとは非常にめずらしい状態だつた。白黒テレビが全教室に入ること自体一つの進歩であつた。こういうふうに特別研究校でない限り全教室に白黒のテレビがなかつた。こういうふうに思います。カラーテレビは、この時点では一校一台あればいい方な時代だつた。こういうふうに私思っております。そういう時代ですから、白黒か、カラーかということについてはいろいろ論議があつたようでございますけれども、白黒でも完備した方がいいだろう。より有線の活用ということにウェイトを置いたらどうだろう。

その点についても、御指摘のとおり甘かつたかもしれません。ということは、ここで有線を切る最も大きな原因といえますか、内面的な検討のところは、現在有線テレビが全国的に地域的にふえているところは奈良県ですか、生駒、東京でもありますが、そういうところは共同アンテナ方式要するに一本のアンテナで有線を使つて各家庭がテレビを視聴しなければいけないという地域、

そこに放送センターを設置して、それを教育に利用する。したがって、そのセンターからの放送は各家庭でも視聴できる。だから学校利用もできますけれども、各家庭社会教育にも大いに利用できる。こういうところがいま有線テレビが発展しているところであります。

館山の場合は、学校と公民館だけでございますから、使用時間使用内容その他の点からいつて投資効果は見合わないという見通しをかなりとらなくては行けない。こういう考え方の基礎になつていると思ひます。

御指摘のように、諸集會も集まらないで利用できるというような利点はあります。これはそういうふうにいまでも利用しておりまして、この放送を使えば一挙に市内の学校に全部伝わるというような利点はあります。今後はそれがなくなりますけれども、そういうことよりもこの際、有線の千五百三十六万ですが、この毎年の支出の方が大きいんじゃないか、こういう見通しに立つたわけでございます。

それから、西岬中学の件、これも見通しが甘いじゃなかったかと、こういう御指摘でございますが、そういう点を言われれば、そういう点ごもつとも反省せざるを得ないと思ひますが、確かにあそこで建築をやるんですから、教育的に影響のあるということとは、ゼロだということは言えないと思ひます。運動場も狭くなるだろうし、安全の点は、困つて十分気をつけるつもりでございますけれども、騒音その他支障の点はあると思ひます。

一年遅らせれば小学校校舎として建てられるんじゃないかというところでございますけれども、五十一年から中学ということでは

請をしてきまして、いまさらこれを変えればまた元からやり直しということになりますので、地元の区長さんの集まりその他での踏み切り、小学校にするか、中学にするかという形での話し合いを持ちましたけれども、中学として建てるのが事務的にも順当だし、地元としてもその方が早く済むのだというふうな意見もありまして、現在のような状態になつたわけでございます。中学校でございませうけれども、小学校でも使える企畫の範圍内において建築を進める。こういうつもりでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 議會運営上一言申し上げます。

おむね三回程度で一時間前後ということでございますが、質疑中でございませうけれども、いかがでしょうか。

○一五番（辻田 実君） それでは時間もあれですから、あとは細かくなりますので、予算委員会もあるわけでございますので、その方に移して、以上をもつて終りたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一五番議員君の質疑を終わります。次、一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、議案第一号昭和五十四年度一般会計予算について質問いたします。

まず、予算全体について市長は施政方針で「当初予算につきましては、健全財政の基調を堅持しつつ、財政の重点的な運営を図りながら住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育環境づくり、産業の基盤づくりを主要施策として積極的な予算を編成した」といつていますが、予算の特徴は歳入歳出とも前年対比で十八億八千八百万円の増で、三〇・七％の伸張率になつています。

使途別に見れば建設事業費が二十七億八千七百万円、前年対比で八〇%の増、内容は市債が前年度の二・一七倍、公債費も五億円を越え、前年度より四四・九%増になっています。さらに債務負担行為四億五千四百八十八万円を加えると、借金による膨張財政になっています。これで健全財政を基調としたと言えるかどうか、伺います。

次に、私の質問は市長の施政方針に示された四つの主要施策である住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育環境づくり、産業の基盤づくり等に重点を当てながら、政策的な問題並びに市長の政治姿勢をただしていきたいと思います。

第一は、歳入十三款寄付金一千四百九十九万八千円の内訳について伺います。この件については毎回問題にしていますが、公費で負担すべき行政経費の財源を寄付金に求めることは、不公正な税外負担を市民に押しつけることになるからであります。

第二は、歳出二款総務費の給料についてですが、給料全般に及ぶもので通告質問で三等級昇格試験の問題を取り上げましたが、時間切れになりましたので、お尋ねするんですが、三等級昇格対象者は九十四人あると聞いていますが、従来どおり合格できるのかどうか、伺います。

第三は、五五ページ市長車購入費四百六十万円についてですが、どのような車を購入するのか、伺います。

第四は、五七ページ行政委託料八百二十八万六千円についてですが、この委託料は名目的には各戸単位に支出されていますが、実質的には町内会長に連絡費あるいは手当的なものとして受け取られています。このため市と町内会が癒着し、民主的、自主的な

組織が上意下達の機関化し、市の事務であるごみ収集手数料の徴収までやらされています。これでよいのかどうか、伺います。また、コミュニティ活動についても行政サービスで行われていますが、民主的に住民の総意が生かされなければ上意下達の機関化されるおそれがあると思いますが、伺います。

次は、四つの課題について伺います。

まず第一は、福祉社会づくりについてですが、三款民生費関係になります。身体障害者用住宅の建設、福祉作業所建設などの積極面は評価しますが、老人や幼児についてはほとんど国の制度に依存しています。

鴨川市は人口三万余で予算規模館山市より小さな都市ですが、寝たきり老人のために移動入浴車を配置してめんどうをみています。館山市でも実施すべきだと思いますが、伺います。

また、幼児保育についても三歳未満の保育料はD八の階層で一万二千円ですが、館山市は三万五千五百円で鴨川市の約三倍になっています。保護者の強い要望である保育料の軽減を図る必要があると思いますが、伺います。市長は財政にゆとりができたといっていますが、どうでしょうか。

第二は、住みよい環境づくりについてですが、四款衛生費、八款土木費関係になります。

ごみ収集手数料は、予算では歳入に関するものですが、環境問題として取り上げました。半沢市長は無料であつたごみ収集手数料を有料にいたしました。ごみ収集事務は地方自治体固有の中心的な事務で公費でまかなうのが地方自治法の原則であります。県下二十六市のうち二十市が無料で、他の六市は事情で事務組合が

行っています。市長は財政にゆとりができたというなら無料にすべきだと思いますが、伺います。

次に、八款道路新設改良費は前年度より六千四百二十八千円減少しています。道路は住みよい環境づくりの上で重要ばかりでなく、都市計画の展望に立つたものでなければならぬと思います。

半沢市長は、施政方針で館山バイパスの早期実現といっていますが、計画された館山バイパス路線は住みよい環境を破壊するばかりでなく、都市計画から考えても再検討する必要があると思いますが伺います。

さらに、館山高校の跡地は館山の中心地域で十年、二十年先を展望した都市計画から見て利用度を考えるべきで、第三中学校の敷地にするのは無謀だと思いますが、伺います。

なお、館山バイパス路線の設定にしても、第三中学校の建設にしても、発想は便宜主義的な安上り行政の典型だと思いますがどうか、お伺いします。

第三は、産業の基盤づくりについてですが、六款農林水産業費を見てもほとんど進展は見られません。水産振興費は前年度より二千二百四十八万四千円減少しています。水産資源の開発は名ばかりでございします。館山市の発展は農林水産業、観光の振興にかかっているのにいずれも不安定な状態に置かれています。市長はどのように考えているのか、お伺いします。

特に、農産物の価額を安定させるために、市の特産物に対しては市独自の価額保証制度をつくる必要があると思いますが、お伺いします。

第四は、教育の環境づくりについてですが、十款教育費特に学校建築費中第三中学校の建設についてですが、これには中学校統合問題が結びついているので、いままでも論議されてきましたが、関係地域との話し合いが不十分のまま、なぜ急いで第三中学校の建設、中学校の統合を進めなければならぬのかわかりません。解明をお願いします。

第三中学校の建設が五十五年四月一日で完成、第四中学校の統合、神余、豊房中学校は二中に統合を進めながら、なぜ西岬中学校の統合を一年遅らせるのかわかりません。解明をお願いします。西岬中学校の跡を西岬東小と西小を統合して使用することになっているが、小学校と中学校では建築の内容が違うと思いますが、お伺いします。

東小は鉄筋で改築されたばかり、西岬中学校が防音鉄筋で改築されたら二中の統合は拒否されるのではないかと思います、伺います。

第三中学校だけ防音校舎にしないのはなぜか、伺います。

次に、私は議案第二号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計予算について質問します。

議案の説明資料では、保険税一世帯当たり平均八万五千五百五十八円、前年対比二七・八％。一人当たり平均三万三千三百七十四円、三二・五％と大幅な値上げになっていますが、予算書では五十二年度は前年対比で六百七十七万三千円の増、五十三年度は一億七百六十六万二千円の増、五十四年度は一億八千九百一十四千円の増となっています。医療費の五％上昇を見込んでいますが、この増は六千七百万円で、五十四年度と二千二百万円の差があります。



保険税の元になる保険給付費は、五十四年度では前年対比三億六千三百三十万三千円の増、五十三年度は二億四千八百八十八万六千円の増、五十二年度は五千五百六十五万七千円の増になっています。積算資料は過去三年間の実績を総合した平均をとっているようですが、毎年六月の基本算定では繰越金が出ています。この点から見ますと、積算が事実と合致してはいないのではないかと思われるが、伺います。

しかし、いずれにしても、保険税は大幅な値上げになり、市民生活を圧迫することは間違いありません。そこで、その軽減を図る必要があると思います。医療費に関係のない経費助産費、葬祭費、育児費、事務費の超過負担、納税費等を合計すると六千三十五万八千円になります。この分については他会計に移すか、一般会計から繰り入れて保険税の軽減を図る必要があると思いますが、伺います。

次に、私は議案第四号昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計予算について質問します。

消防法の改正で建築基準が厳しくなると聞いていますが、どのように厳しくなるのか、その内容についてお伺いしたいと思います。

不十分な点は再質問で行います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 渡辺議員の御質問にお答えいたします。

五十四年度予算が健全財政と言えるかどうかということですが、確かに起債はふえてはありますが、しかし公債費は依然として六%台でございまして、そういう指標から考えて

健全財政だと言えると考えております。

三等級の昇格の問題ですが、通告質問でもお答えいたしましたように、三等級の昇格選考のことについては従来行っておりまして人事考課にペーパーテストの結果も加えて総合的に、客観的に評価しよう、つまり多くのデータから昇進選考を考えようとしたものでございます。その試験を加えるということは、多数の昇任候補者について客観性、公平性が確保されることになり、職員自身もそれぞれに納得ができる好ましい結果になるというふうに考えております。

それから、市長車の購入の件でございしますが、購入する車種はニッサンプレジデントの予定でございします。

行政委託料でございしますが、これについては再々御質問が従来からもございましたけれども、こうした制度は決して上意下達、市の考え方を市民に押しつけるものでは決してございません。むしろ市民が行政への参加する機会であるというふうに考えております。また、御指摘のようなごみの手数料も取らしてあるということでございますが、これも決して押しつけるというわけではなくて、それぞれの町内会に御了解と御納得を得てやってあることでございまして、決して上からの押しつけだとは考えておりません。

民生費の問題ですが、寝たきり老人の入浴車の件でございしますが、これは広域圏でかつて問題にしたことがございましたけれども、いろいろ経費の点でとうていできないという結論になつて取りやめになつた経緯がございしますが、これについては今後検討をしたいと思ひます。

保育料の軽減の問題でございしますが、これも国の基準から比べ

ますと約一〇％程度市では軽減をいたしているわけでございますので、当分の事でやつていきたいというふうに考えております。住みよい環境づくりということではいろいろ御質問がございましたけれども、ごみの手数料の問題についてはやはり再三お答え申し上げておりますとおり、やはり受益者負担が原則だというふうに考えております。

道路建設費が少なくなつたじゃないかということでございますが、これは従来開発公社へ支払つてまいりましたものが五十四年度からなくなりましたので、その分だけ減つておりますし、むしろ実質的には昨年から比べてふえているわけでございます。

それから、館山バイパスの御質問がございましたが、これは四十三年でございましたか、館山市で決定をいたしました都市計画街路でございますので、街路の上に載つた路線でございますので、これは都市計画に従つてやつてゐるわけでございまして、環境を破壊するということには考えておりません。

また、館高跡地の利用につきましては、従来の経緯等もございまして、三中を建設するのが一番適当だというふうに考えております。決して安易な行政、便宜主義の行政だというふうには考えておりません。

産業の基盤づくりの件ですが、それぞれ水産業につきましてもこれは地元の各漁業会等という話し合いをいたしまして、その御要望にすべてこたえているわけでございまして、継続的な事業の關係がございまして、多少ある面では減つてゐるかもしれませんが、むしろ漁業会からは今年は大変予算を組んでいただいております。ありがたいというふうにお礼を言われてゐるものでございます。

それから、農業の価額保証の件でございますが、これも確かに大切なことではございますけれども、単に館山市だけでそれを価額を保証するということはできないと思ひます。もつともつと広く全国的な立場から考えなければいけない問題だろうと思ひます。中学統合の問題につきましては、これは教育長の方から御答弁をいたします。

保険税につきましては、先ほども辻田議員に御答弁申し上げましたけれども、医学、医術あるいは薬学の進歩によりまして、高度の医療が受けられるようになったわけでございまして、したがつてどうしても医療費が高くなつて行くわけでございますので、保険税がふえることもやむを得ないことだと考えてゐるわけでございます。この保険税の算定につきましては、御指摘のように過去三年間の実績等を勘案しながら国、県の指導によつて行つてゐるわけでございます。

それから、助産費、葬祭費等これも再々お答えいたしておりますように、国からの補助金があるわけでございますので、やはり国保会計から支払うのが、支出するのが妥当ではないかというふうに考えております。

一般会計から繰り入れないかということでございますが、これもこの前お答えいたしましたとおり、やはりほかの政府管掌の保険とか、あるいは組合の保険とか、船員保険とかいろいろの保険がございしますので、そういうものとのバランス上、一般会計から繰り入れるのはあまり適当ではないというふうに考えてゐるわけでございます。

それから、寄付金の問題でございますが、いずれもこれは市民

の方々からの自発的な意思に基づいて御寄付の申し出のあつたものを受け入れてゐるわけでございます。

国民宿舍の改築につきましては、消防法の第十七条の規制を受けまして、延べ面積七百平米以上の建物については屋内消火栓を本年の三月三十一日までに設置するように義務づけられてゐるわけでございますので、この際この老朽した建物に多額の投資をするよりも、思い切つて新しく改築した方がいいというふうな考え方になつたわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○教育長(安田豊作君) 三中建築と中学統合問題についてでございますが、関係地区との話し合いが不十分のまま、なぜ急ぐんだということでございますが、当初館山高校が移転したあとに三中を建築するという考え方をしたのは、第一回といひますか、当初地区を回つたのは五十四年の四月をまず目途に回りました。実際に館山高校の建築の状況をいろいろ聞いて見ますと、とても五十四年の四月は無理だということがわかりまして、その後同じ年度でしたけれども、もう少し延びそうだということでもまた各地区を回つて了解を得たわけでございます。その後館山高校の建築の進捗状況が急速に流れまして、いままでは御説明申し上げたように、本年の八月には移転ということが確実になりましたので、そのあと建築して五十五年の四月を目途に統合しよう。こういうことでは進んでゐるわけでございます。

もう一つ、急いでゐるような感じをお持ちの点は、五十五年の四月です。から条例改正は五十五年四月まででいいわけでございませう。それを一年早くこの三月の議会でお願ひしてゐるといふこと

は、さつきも辻田議員の御質問にもお答えしたように、五十五年の四月統合までに新しい校舎を建築したいと、そのための補助金も得て建築したい。こういうための措置でございます。したがつて、一年早く条例をお願ひするということでもそんなに早くというふうなお感じをお持ちになつてゐるのではないか、こういう点がございませう。

それから、西岬中学をなぜ遅らせるかという点でございますが、さつきから辻田議員の御質問にもお答えしたように、現在五十四年の予算でお願ひしてゐるようには西岬中学の建築をいま進めておるわけでございまして、いま西岬中学の建築を統合するということとで条例に盛るわけにはいかない。こういう判断から条例にも盛らないし、実際には一年遅れて統合するということになるかと思ひます。

第三の、そのあと小学校に転用するということだが、学校の中身が違ふんじゃないか。こういう御質問でございますが、小学校も、中学校も教科は一つ違ひますけれども、大体教室の広さは同じでございます。しいて言へば窓の高さとか、手洗いの高さとか、あるいは黒板の高さとかそういうものが違ふれば、なおより親切だろうと思ひます。一番建築上違ひの点は階段でございますけれども、階段の幅は百四十で小中とも同じでございます。ただ違ひの一段の高さこれが小学校の場合は十六センチ以下、中学は十八センチ以下、これは十六センチにしておけば中学でもより安全でございますので、そういう点で考慮しております。踏み場は二十六センチ両方同じでございます。踊り場は三メートル以内で設ける。これも同じでございます。そういう点を考慮して建築



を計画してゐるわけでございます。

それから、三中を防音にしないのはなぜかということでございます。これはせんだつての御質問にもお答えしたとおり、一つは防音改築というのは現存の校舎を改築するという場合に補助金をくれる。ですから、その学校の建築面積がもつと広く要だという場合には、現在ある校舎の面積しか建てかえてできないというのがいまの防衛施設庁の補助の基準でございます。

しかし、新設の場合も絶対ないのかという御指摘がありましたけれども、一般地ジェット機の飛ぶようなところでは新設も建てたという例も聞いておりますけれども、ここは二級でヘリコプター基地でございますので、そういうものはできないというふうに聞いております。そういうことでございます。

それから第二として、三中は統合校舎でありまして、先ほどもお答えしましたように、できれば全児童が同時に入れるような、そういうふうにしてもらいたいという希望が多いわけでございます。防音校舎で六千平米近い校舎を建てるといふのは最低四年かかっています。いままで二中が四年かかっていますが、いまから統合をやるといふのに三年も、四年も建築をやつておつたんでは統合の上で非常に支障を来すというような点も一つの問題点としてあるわけでございます。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、午前の会議は休憩とし、午後一時再開いたします。

午後零時 休 憩

午後一時四分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後出席議員数二十六名、休憩前に引

き続き会議を開きます。

○市長（半沢良一君） 渡辺議員の御質問に対しまして答弁漏れがございますので、追加させていただきます。

寄付金の内訳でございますけれども、費目別に申し上げますと水産関係漁港でございますが七百三十五万九千円、消防関係で防火水槽、詰所でございますが、等で四百六十八万九千円、土木費関係で道路舗装等でございますが二百万、奨学資金として十五万円を見込んでおります。

以上、答弁を終わります。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまのあれで、ちよつと聞き漏らしたんですが、港湾関係は幾らですか。

○市長（半沢良一君） 港湾関係はございません。

○一八番（渡辺軍治郎君） それでは再質問しますが、市全体の予算問題について私は借金財政で膨張したそういう点が非常に不健全財政じゃないかと、市長は健全財政の基調を堅持したと言つてゐるけれども、私たち一般の家庭で言えば借金がだんだんふえて入つてくる見通しもあまりはつきりしないということだと、これは倒産につながるようなそういう状況になると思うんですがね。起債残高を見ますと四十二億三千七百万円、それから債務負担行為四億五千四百八十万入れますと、大体四十六億九千万ぐらいが借金の残高になります。年々借金がふえていく。五十四年度は昨年の二・一七倍というように急激なふえ方なんです。こういう状態が続いたら、結局そのしわ寄せは市民にかかつていく。そういう問題で不健全ではないかということを質問したんですが、市長は指標から考えても不健全ではないと言われましたけれども、

指標そのものがどうかということとはちよつとわからない問題だと思ふんです。そういう点で、私もこの指標というものがどういふものかわからないので、そこから見て健全、不健全ということの判断がちよつとできませんので、そのへんはもう一回答弁願ひたいと思います。

それから、一般寄付金の問題ですが、ただいまの御答弁では一千四百十九万八千円のうち、四百六十八万九千円が消防の寄付で、道路の舗装とかそういうものが二百万。

この寄付の内容については、消防は消防組織法で全額市の負担ということがはつきり決められているわけです。それなのにこういう寄付を結局取るということは、基本的な考えとして地元で負担してもらいたいという考えがあつて、町内会長とかそういうふうなところで大体これぐらい何とかならないかという事前のそういう話し合いがあつてこういう寄付というものは決められていると思うんですが、これは道路舗装にしておそらくそういうようなことで、あるいは中には市道でないところを舗装してもらいたいためにある程度の負担金を集めて舗装してくれと、あるいは早くやつてもらいたいためにそういうような例もあるかもしれません。が、大体道路の舗装であれば、市道であれば市の管理ですから悪いところがあれば悪いところから直していくと、年次計画でいいですか、一番悪いところから手をつけて直して、住みよい環境をつくっていくのが政策だと思ふんですが、こういう公共事業に対して寄付を取るといふことは、一般的に考えて行政経費の負担を税外負担という形で押しつけることになる、結果的には任意といつても、事前に話し合わなければ予算組めないわけですよ。

ね。そういうことで、寄付を予算化するというのは、これは事前にそういうことをやらなければ予算化できない。寄付というものを任意に求めるとすれば予算化さなくて任意で入つてきたものはどう受け入れてそれを財政的に運用していくことになるわけですから、寄付を予算化すといふことには問題がある。特に行政経費の当然公費で負担すべき行政経費を、財源を寄付に求めるという点ではいつも問題にするんですが、これは非常に便宜の考え、取れるところから取ろうというふうな非常に便宜の考えがあるのではないかと思います。そういう点についてさらに質問したいと思います。

それから、車の問題ですが、四百六十万という、私は車の知識は非常にないんで、四百六十万もする車というのとはどんな車かちよつと見当がつかないのでお聞きしたんですが、普通私たちが車を買うのに大体二百万程度が普通車ではないかと思うんですが、おそらく四百六十万円の車というのと外車かなんかで相当デラックスなものではないかと思うんですが、前の質問ではそういう内容がはつきりませんでした。

私が車の問題を出したのは、結局いまのような借金財政、そういう中で財政が苦しいと、しかも市民の要望にはなかなかたえていかれないというふうな中で、市の車だけが一般の車と比べて非常にデラックスなものだとすると問題があるのではないか。市長の政治姿勢として問題があるのではないか。自分の車だけはい車を買う。しかし財政的に見たつて、市民の要望にこたえる施策にしても全く不十分、そういうふうな中で自分の使う車だけが非常にいい車を使うといふことでは問題があらうと思うんですが

その点をお伺いします。

それから、私が給料の問題で質問したのは、昇格試験そのものにも問題はありますが、五十四年度当然四月になれば昇格の時期だと思ふんですが、昇格対象者が九十四人あるわけですか。だからこの九十四人の資格者を全員昇格させるのかどうかというところをお聞きしたわけです。それに対して回答がなかった。試験をやるのにこういうあれだからやらないというそういう回答しかなかったわけですが、そういう点をはつきりさせていたいただきたいと思ふます。

それから、行政委託料の問題、市長はごみの使用料にしてもお願いしてやつてらんだというようですが、広報にしても、ごみの収集料にしても、いろいろ市の伝達事項とか、公共料金の徴収ですよね、そういうようなものまで町内会に負担させるということになれば、どうしても上意下達の組織になるわけです。要するに町内会が御用団体化す、自主的、民主的な組織が御用団体化することが出てきているわけです。市長の意思に沿ったものが回覧とかそういうものでやられていく。市の行政と結びついたそういう活動をやられていると。

これは、自主的、民主的なそういう組織の発展を願うとすれば町内会長に給料のような形で渡すのではなしに、町内会全体にそれを渡して、そうして自治活動を発展するような資金に使うと、町内会長に対する報酬とか、手当は町内会自身が決めるといふこととでなければ民主的な運用はできないと思ふんです。こういうような状態があるわけですから、それに対する行政指導をしるということでもできないんじゃないか、行政の足に市が使っているんだか

ら、そこが問題だと思ふんですが、どうなんですか。

そういう点考えて、コミュニティ活動を各地域に組織しているこれもへたをすると上意下達のそういう機関に機関化されるおそれがある。民主的に運用していくにはどうしたらいいかという基本的な住民の総意を生かすようなそういう組織にしていかなければならないと思ふんですが、上からつくられるものだけにそういうものが心配になるわけです。その点についてお答えを願いたいと思います。

次は、社会福祉関係の問題で、移動入浴車の問題について鴨川の例を出して館山でもという要望をしたんですが、市長は検討するといふような答えをしていますが、やる方向で検討するのかわたしだ検討するのかわたしもやらない場合もあるわけですから、やる方向で検討するのかわたし。その点をはつきりさせていただきたいと思ひます。

それから、保育料については市は厚生省基準で、助成としては七百万円ぐらい助成はしていると思ふんですが、鴨川の例と比べると、鴨川はおそらく四千万ぐらいの助成をしているから、館山市は三万五千五百円のところを一万二千万でできていると、こういう進んだところとえらい開きがある。もう一歩考える必要があるのではないかと。

幼児保育というのは幼児教育の問題で非常に重要な問題で、できるだけ家庭の負担にならないような形で進めるのが当然だと思ふんですが、よその県でもこれは神奈川県をいつも出すんですが、南足柄ですか、一市だけが二万を超えて、あとはみんな二万円以下です。ですから、保育行政に少し力を入れようとするな

ら、もう少しゆんどうをみてやつたらいいんじゃないかと思いますが、さらにそれについてもお伺いしたいと思います。

住みよい環境づくりの問題で、ごみの収集料を無料から有料にしたわけですが、いつも問題になるのが市長が受益者負担、利益を受けるものから応分の料金を取るのとは当然だというよりなことを言ってるわけですが、手数料の問題では地方自治法ではごく一部のものを対象にしているわけですよね。たとえば印鑑証明とか、戸籍謄本とか、抄本とかそういう手数料、一部のものの手数料を対象に自治法は手数料を取ってもいいということになってるわけです。

ごみのように市の環境衛生と清掃と結びついた公共的な市の中心的な事務なんです。自治法では環境衛生ということは市の事務としているわけです。当然自治体がやらなければならぬ事務としているわけです。だから県内でも二十市が無料で、あと市として無料にできないところは町村とか、いろいろの関係がありますから、事務組合等をつくって、しかも一袋十五円とかそういうことでやっているわけで、館山市のように一律に料金を決めてやつてるところは一つもないわけです。

だから、市長のそういう受益者負担の考えを変えないと、何でも利益になつてものが金を出せばいいんだというような考えは全く私は地方自治法を無視している問題だと思ふんです。その点考えを変える考えはないのかどうか、お伺いしたい。

それから、バイパス路線の問題についても、市長は先ほどの答弁で都市計画道路が四十三年に決められていたから、それに乗せたんだ。これも非常に便宜主義だと思ふんですがね。

あの正木に行く昭和橋通り、あの通りは昭和二十五年ですよできたのは。あれは鈴木森蔵さんが市長のときに昭和二十五年に昭和橋が完成しているんです。正木道路は産業道路としてできたんです。都市計画道路ではないんです。

市長は、盛んに都市計画道路に乗せたというけれども、市にとっては重要な正木に抜ける産業道路で、これがバイパスによつてつぶされるわけでしょう。結局二十五メートル道路、四車線の道路ができたら産業道路という、あるいは生活道路という性質はつぶれちゃりわけです。

建設省との間で道路の選定をやつたときに、われわれは議会の問題にもならないわけです。市長は建設委員会ですのこのうのといひますけれども、建設委員会に付託されたものではない。あるいは協議会であつたかは私は知りませんが、議会の問題にもひとつもならなかつた。

結局、道路は真つすぐにつくるとすれば、南町の交差点まで四車線にならなければならぬわけです。もし市長の言うように正木の道路に国道を乗せたとなれば大変です。全部家を取つたらわななくちゃできないわけです。補償が大変だ。だから途中からひん曲げて学校群の間を抜けるような便宜的な道路の設定なんです。これは建設省が正木に行く道路を拡幅して建設するということになれば、市は財政的に一文も負担しなくてもいいわけです。建設省にまかして建設省が拡幅してやつてくれるんだ。こういう設定の仕方は全く便宜主義だと思ふんです。しかも金のかからない行政それでしよう。金をかけなくても済むわけですからね。建設省がやるんだから正木道路の拡幅は、非常に便宜的な考えで、

学校群の間を抜けたら全く環境が破壊されますよ。あの狭いところで四車線の二十五メートル道路ができたなら、上と下が分断されて、上も下も使いものにならない。相当学校に大きな影響を与える。防音壁をつくればいいというよりな、そういう簡単な問題ではない。

私は、こういうことがもしやられたとすれば、海岸道路をつくったときに、私は海水浴場つぶすからといって反対をした。つくるならちようど汐入川の橋があるあそこをずつと富士ディーゼルのところまで拡張するのが市の発展策からとつたら当然だ。いまになつて見れば安上りの道路です。海岸のだれもいないところに道路をつくるのは国有地を払い下げるわけです。金をかけなくても用地取得できるわけです。賠償もいらぬ。安上りの道路をつくった結果が海水浴場を破壊したわけです。

いまのバイパス路線で、市長の考えているような道路をつくるとしたら、先に行つて相当大きな汚点を残すんではないかと思うんです。館山の都市計画から考えても。ですから、そういう点は再検討したらどうかということを再三言つてるわけですがね。あまりにも安上りな行政、便宜的な行政。

これは三中間問題にもつながると思うんです。私は再三便宜主義じゃないかというのを再三言いましたが、館高が空くからちようどいいからそこに三中をつくるんだ。前からそういう構想があつたわけではないんですよ。三中をつくらなければならぬという考え方はあつたかもしれないけれども、構想、計画そのものはない。たまたま館高が空くからそこに三中をつくるということであつて、本当に将来の教育問題とか、適正規模ということと

考えてやるんならもつと早くそういうことが、館高が移転にならうになるまいがそういう計画があつて、また館高の跡を使う場合でも学校を建てた方がいいのか、それからあそこを将来十年先、二十年先について、いまの場所は文化やなんかの中心に庁舎と結びついて、下の方は中央公民館とかいろいろ使い道があると思うんですが、そういうものをやる場合でも市民からアンケートをとつて慎重に考えてやつてもいいことではないか。

いまになつて考えれば、北条小学校の跡を中央公園にしたということは非常に賢明であつたと思うんです。そういう用地の使い方、住みよい環境づくりをする都市計画と結びついてそういうことを計画的に考えていくのが重要じゃないかということとここで問題にしたわけです。その点について再度便宜主義、安上り行政といつていますから、そういう点についてお答え願いたいと思います。

それから、産業基盤づくりですが、予算書を見ても全く水産関係では名ばかりと言つたのは、たとえばアワビやクルマエビの放流にしても全く目薬ぐらいにしか金額としては出てないわけですよ。水産資源の開発というのは、館山市の水産資源と言えば大体小釣り、あぐりあとは磯根資源、小釣り、あぐりというのが非常に不況になつていふ。そういう中で磯根資源を開発していくというのが水産資源の開発には最も重要だと思ひますが、築磯事業とか、アワビやクルマエビ、サザエその他の放流漁業といひますか、そういうものにほとんど金が使われていない。果の補助だけを対象にしてやつていふというやうなことで、本当に館山の産業を発展させていく考えがあるのかないのか、そういう点がこの



予算書では問われている問題だと思います。

もう一つ、農業については館山市の経済、館山市が発展する上で水産業と農業これは車の両輪のように館山市にとつては重要産業だと思ひます。観光もこれに続いていますが、こういう産業を発展させなければ館山市の発展はないわけです。

ところが、農業はいま減反問題、水田の再利用とかそういう困難な問題にぶつかつて何をつくつたらいのか、米づくりと同じように採算のとれるそういうことができるのかどうか、壁にぶつかつてゐる。そういう中で館山市の産業はどういうふうな産業を、たとえば農業にすればどういふ農業を力を入れてやつていふたらいのか、そういう方針はさつき質問の中では示されませんでした。

価額保証の問題では、これは生産価額を安定させるという上で非常に重要な問題ですが、市長は館山市だけではできないと考へようとする気もないような答弁でしたけれども、私が言つてゐるのは取れ過ぎたときには採算割れして農業を継続できないような、そういう状態にも陥るわけです。だから、どうしても価額保証というものは農業を安定させるために一番やつぱりいまでは大事なところにあるのではないか、米の場合には食糧制度がありますから、そこである程度米価が保証されている。しかし、ほかの農産物に対してはそういう価額保証がないわけです。少なくとも米麦、大豆主要な農産物については国が当然価額保証をとるのは当然だと思ひます。

しかし、館山の場合に、自治体の場合はそういう大げさのものでなくとも、館山市の特産物になればレタスとか、イチゴとか、

花卉とかそういう館山市の農業経済を支える上で大きな収穫を持つてゐるそういうものがあるわけです。これだつて取れ過ぎれば価額が下落して採算に合わない。ますます農業が減退していくというようなことだつて考えられるわけです。ですから、館山の特産物については市独自でやろうとすればできると思ひます。

私の考えた一つのやり方とすれば、たとえばベネリが一箱二万円ぐらいのとき、いま一箱千六百円とそんなに開きがあるわけです。確かに二万円のときには大きくもうけていたと思ひます。そういうときに積み立てをすると、それと同額ぐらいの館山市が助成をして基金制度をつくれれば、不況のとき値段割れして下落したときに、基金を取りくずしていくというようにすることも研究すればいろいろ出てくると思ひます。

ですから、こういう価額保証を考える場合に、農産物価額安定協議会とかそういうものをつくつて、いろいろ知恵を集めてどうやつたらいのか相談して、そういうところで地域の産業を発展させていくことが、やればできるはずなのに、市長はやれないと言つていますが、そういう点はどう考えるのか。

それから次は、教育の環境づくりですが、先ほどの質問で私が一番問題にしたのは話し合いが不十分なんです。不十分の内容というのには、スクールバスを出してくれるのか、それが一番問題だと思ひますが、遠隔の地では国鉄のバスを利用するのか。相当多く移動するわけですから、スクールバスを出してくれるかどうか話し合いの内容としては一番重要なんです。そういう重要な問題が了解を得てないんです。スクールバスとすれば無料だから父兄は賛成です。そういうものが話し合つて合意を得てない段

障で急いで統合を進めたら問題が起きますよ。

いま、多古町では町を二分して、小学校ですけれども、登校拒否までして争っているわけです。もしそういうことができなくて、入れものだけでできた場合、話が違ひゃないか、そういう話なかつたじやないか、登校拒否されたらどうします。一番肝心の足ですよね。どこだつてスクールバスが問題になります。遠隔の地から通学することになると一番肝心の問題が話し合いの中で煮詰められてない。それなのになぜ建築を急ぐんですか。債務負担行為までして、予算が取れないからということ。しかも便宜的に館高の跡につくると、もつと延ばして慎重に考えてもいいはずですよ。なにも館高の跡につくらなくても、検討してよそにつくてもいいわけなんです。あそこはもつといい利用の仕方もある。話し合いも形式的で小学生、中学生対象にしても千三百人、百人ぐらゐの参加しかやってない。それで話し合いができるなんてことはありませんよ。これは子供がまだ生まれない関係、地域の人たちは子供が生まれれば当然小学校、中学校の教育を受けるはずですよ。全地域を対象にするような合意ができなくて、それを急いでやるということは私にはどうも了解できないんですよ。あとで問題起こつたらどう責任とりますか、おそろく通学問題が一番問題だと思ふんです。それで聞くわけです。

西岬中学の問題、二中に統合するのに一年遅らせてその中に入れてやりたい、新築してつづばなものができたら二中に来るのにやはりいやになつちやいますよ。二中に来るのに相当困難が伴うわけです。しかし、西岬中学の方はちゃんとできてそこに生徒が入れるようになった、統合問題では五十五年四月に二中だつて三

中ができればそつちに移つて入れものができている。なぜ入れものができているのに西岬中学は一年遅らせるのかかわらないんですよ。

本当に適正規模につくるといふ、そういうことならば一日も早く、専門教師が足りないとか、いろんなことを言つてゐるわけでしょう。一日も早く統合した方がいいのに一年遅らせる。しかも西岬中学ができて生徒が入る、いままでのぼる校舎に比べていいものができたら何で二中に行かなければならないかという問題が必ず出ますよ。そこまで話が進んでいないんですから、統合問題これからと言つてゐるんです。教育長のいままでの答弁では来年度中に話し合いを進めると、話し合いをして合意してから建築に入るのがあたりまえではないんですか。つくつたあとで合意ができなくてだめだと言われたら、登校拒否されたら、そういうこと起こりかねないんですよ。それだから聞いているわけです。

小学校と中学の差だつて計画性がないんですよ。西小と東小統合して入れるんだつたら、小学校規模の建設をすればいいんです。そこもわからない。東小は火災でもつて鉄筋のいい校舎ができたわけです。なにも急いで統合しなくてもいいわけです。もう少し時間をかけても。そうだとすれば、三中ができて、東小もある程度改築されて、いわゆるあと西小だけの問題そういう問題もいろいろからんで、なんかわけのわからないところがあるわけですよ。統合問題と三中建設の問題と結びついていきますから、入れものができてなぜそこに入れることができないのか全くわからない。西岬中学ができたなら、話し合いも進んでないそういう中で、スクールバスの問題をそういう約束がないからといつて、ひねくれられ

るといふとおかしいんですけれども、そんな約束した覚えはないとやられたら、二中に統合できませんよね。

それだつて、西岬の方では満足しています。東小が火災にあつて改築して小学校だつて満足している。満足できる条件があれば統合しろという条件にうまく乗つていくかどうかということは非常に疑問に思われる。なにか説明会も形式的にやつただけでどんどん進めていく。こういうやり方というのは、市長のやり方が一貫しているんです。バイパスの路線の決定にしても、だからそういう点で間違ひを起しやすいくことを心配するから、くどいようですが、こういう質問を続けているわけです。そういう点についてはつきりとした御答弁をいただきたい。

それから国保の問題ですが、これは大体保険給付が上れば保険税も上るといふ仕組みですが、しかしあまりにも上り方が激しいわけです。

保険給付受で見ると、五十四年度は三億六千万これだけ前年度より増加しているわけです。それから五十三年度の予算を見ますと、前年対比では二億四千万円増加している。ここで一億二千万円の大きな差が一年間に出てきておるわけです。こんな差がどこから出てくるのか、そういう点で疑問があるわけです。五十二年度は前年対比で五千五百円しか上つていませんから、五十二年度と五十三年度の間では約二億円違いが出てきています。医療費の改定とかそういうあれがあつてのことだと思ひますが、昨年度との間では一億二千万も開きが出てきた。こんなに差が出てくるのかどうか。そこらに積算の基礎の誤まりとか、積算と実際が合わないそういう面が計算上あるのではないかというように、

なんかはつきりしないものもあるわけです。そういう点をひとつ解明してもらいたいということ。

それから、保険税が今度上りますと、えらい値上りになることはもうはつきりしているわけです。これを五十二年度の決算で見ると一世帯当たり六七・八%上るわけです。個人当たりは七五・九%上昇になるわけです。

個人的な保険税の負担が非常に大きな、八万五千五百円という大きな負担になりますので、その点で一般会計からの補てんといひますか、繰り入れができないかということをお尋ねしたんですが、市長は他の保険とのバランスでできないというように、そういう返事ですが、私は県下の大体館山と同じようなところの調べをしてみたんですが、その中で、全部やると数字的なあれでめんどろですが、一般会計から補てんしているところ県下で十四市あるわけですが、その内容について見ますと、非常に違いのあるのは、習志野市は一世帯当たり四万二千九十五円、一人当たり一万四千九百三十円非常に安いんですが、ここは五千二百万円繰り入れしているんです。ここの保険加入率を見ると二一%、館山市の加入率を見ますと四四・九%、県下で一番加入率が多いようなそういう状況のところなんです。保険加入者は多いところと少ないところは当然出てくるわけですが、保険加入率を見ると習志野が二一%、八千代が二四%、八千代は六千七百万繰り入れしているわけです。それから二五・八%の加入率で流山ですけれども、一世帯当たり四万九千六百二十七円、一人当たり一万五千八百六十四円と低いランクにいつてるところですが、五千六百万繰り入れしているんです。高くなるからどうしても繰り入れをしなければ



ば、この程度の保険料の維持ができないというのが実情だと思つてゐる。

大きなところだと大変です。加入率は二八・二％の市川でも三億八千万繰り入れしています。加入率二四・三％の船橋でも一億七千二百万円繰り入れしています。

こういうふうに県下の十四市のところを見ても、結局五、六万台に保険税を押えているところは、みんなやつぱり一般会計から繰り入れしているわけです。ですから、当然八万五千元というよりな高い保険料になれば、繰り入れをしてある程度保険税の軽減を図るべきだと思つてゐるわけですよ。その点もう一べんその考えがあるかどうか。当然繰り入れする根拠もあるんです。六千万も医療費と関係のない経費が出てゐるわけですから、その分については繰り入れしてもいいんじゃないかという根拠もあるわけです。

それから、次に進みますが、国民宿舍の問題ですが、先ほどの消防法の改定では室内の消火栓が厳しくなるといふようなことで、前に聞いた話では、そういう厳しい消防法の基準ができるから、改正前にやるんだといふようなことを聞いてゐるわけですよ。

そうしますと、非常に大事な火災に対する予防、火災が起こつたときの消火栓問題そういう条件が厳しくなるから、厳しくならないうちにつくるといふことになりまして、なにか消防法で規定するそういう防火設備を省略する。そういうところの手を抜くといふようなことで、安上りなことを考へてゐるのかどうかといふそういう疑いも出るわけです。

こと、宿舍の問題ですから、火災が起こつた場合は一番お客さまを大事にする、火災から守るといふような、そういうことが消

火栓の役割だと思つてゐるんですが、それが厳しくなるから、厳しくならないうちに建設するんだといふ考えはどこにあるのかという点をお尋ねしたいんです。

○議長（吉田勇治郎君） 申し上げます。

答弁は簡潔に願います。

○市長（半沢良一君） 御答弁申し上げます。

寄付の件でございますが、これは前もつて地元の方からこういう寄付をするからやつてくれという御希望があつて、それに基づいて寄付の受け入れをして予算を編成していくといふことでございます。あくまでも自発的のものでございます。

三等級の昇格の問題ですが、九十四人全員を昇格するかどうかといふことですが、そういうことはあり得ません。

行政委託料の件ですが、決して、先ほど御答弁いたしましたように上意下達の手段として使つてゐるわけではございませんで、むしろ市民が行政に協力する、むしろ市民の市政参加だといふふうに理解をしております。それから質問の中にもありましたけれども、その委託料は町内会にお払いしてゐるのであつて、町内会長にお渡ししてゐるわけではありません。

移動入浴車の件につきましては、先ほど御答弁申し上げましたように広域圏で相談したこともございますが、いろいろの問題点があるといふことで実現しなかつたわけでございますが、鴨川市の実情を聞きまして、なかなかスムーズに運行が行われていないようにございました、そうした点も検討したい。なお、特別養護老人ホームにおきまして、もし市で希望があればあそこの浴槽を利用していいいというお話もございまして、そういうことを

含めて検討いたしたい。そういうことでございます。

保育料の問題ですが、現在一〇％程度減免をしているわけでございますが、どこまでめんどうをみたらいいのかというのは、これは見解の分れるところだと思えます。

ごみの手数料につきましては、ごみを収集する施設は市町村の固有の事務でございますけれども、その収集及び運搬及び処分に関しては、条例で定めるところにより手数料を徴収することができるといふ規定になっておりますので、問題はないと思えます。

パイパスの問題でございますが、これは四十四年の都市計画街路決定につきまして、都市計画道路は予定されているわけでございまして、その予定地の上にパイパスをつくるということでございますので、本来そこにつくるべき場所であつたというふうに理解をしております。

それから、水産業の件につきましては、御指摘のような築磯事業とか、種苗の育成とか、特に今年は種苗の中間育成等もやりたいと考えておりました、積極的に取り組んでいるつもりでございます。築磯につきましては六百三十万、それから種苗については二百三十四万を計上しているわけでございます。

農業の問題につきましては、稲作転換等の問題もございまして、これからの館山市の農業がどうあるべきかという問題について、やはり次代を担う若い人たちの力にまっとうなところが多いわけでございますので、そういう方々にお集まりをいただいて農業企画研究会というものをつくりまして、本年度から研究、活動しているわけでございますので、そうした意見を聞きながら農業問題に対処していきたい。そんなふうに考えているわけでございます。

価額保証の件につきましては、先ほど御答弁申し上げましたように、館山市だけではなかなか困難な問題があらうかと思いますが、そうしたことも農業企画研究会の中で検討してまいるようにしてまいりたいと思えます。

三中の問題につきましては、教育長から御答弁をいたします。国民健康保険会計に一般会計から繰り入れろというお話でございましたけれども、この間も通告質問で御答弁申し上げましたように、館山市の国民健康保険の税金は、その負担は二十六市のうち決して重い方ではないというふうに理解をしておりますし、また一般会計から繰り入れない理由につきましては、先ほど御答弁を申し上げたとおりでございます。

それから、鳩山荘の改築につきましては、なにか誤解をしていらつしやるように思えますけれども、消防法が厳しくなるから、ならないうちにやろうと考えているわけでは決してございませんで、現在の鳩山荘がこの三月三十一日までに消防法の規定によつて室内消火栓をつくらなければいけない。そのために多額の投資があるので、あの古い建物にいまそれだけの投資をすることはどうか。それならむしろこの際、いままでの経営状況等から考えまして、いつそ改築をした方がいい。そういう考え方で改築をいたすわけでございます。

健全かどうかについては、その指標については総務部長から答弁します。

また、市長車につきましては、公室長から御答弁をいたします。以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 三中の建築と西岬中学の統合について心

配だからという御注意でございますが、私どもとしてはいまの話し合いで了解を得ているものと感じております。御注意を休してさらに合意を得べく努力をしたい。こう思います。

○総務部長（鈴木弘道君） 財政問題特に起債の關係でございますけれども、自治省は毎年地方債の許可方針というのを定めておるわけでございまして、その中で一応健全財政を維持するため一つの見方、指針といたしまして、地方債の許可制限比率というよりもその中で規定しているわけでございます。

いわゆる、地方債比率が二〇％を超えますと、一般単独事業とか、厚生福祉事業とかそういう事業が制限されるわけでございます。また三〇％を超えますと、いわゆる災害復旧と広域行政以外のものは一切起債を認めないというような措置をとつてゐるわけでございます。

そういうような中で、当市におきましては五十二年度の地方債の許可制限比率が六・三％でございますので、そういう比率から見ましても財政的には問題ないというふうに思っております。

○市長公室長（汐崎政光君） 市長車についてお答え申し上げます。

ただいま予定しております車は、先ほど市長が申し上げましたが、ニッサンプレジデントでございます。この車を選びました主な理由は、現在の車がこの車種でございます。そしてもう七年前になりますけれども、その当時の車がやはり同じであつたわけでございます。こうしたことで運転者のこの車に対する経験が非常に豊富でございます。一様に性能、安全性等について非常にいい車だという意見を入れて、遠距離運行等のこともございますので、この車を選びました。

○議長（吉田勇治郎君） 一八番議員君に申し上げます。

おむね申し合わせの時間は一時間前後ということでございますので、その点を踏まえて。

○一八番（渡辺軍治郎君） 市長の答弁で、バイパス問題あれは四十三年から四十四年にかけて都市計画道路はできてゐるんです。

そのときに設定した正木に行く道路は昭和二十五年にできてゐる。上に乗せてという道路はこれは違ふんですよ。県がきて引いた線というのはあの上の方ですよ。もつと昭和橋通りの上の方に線を引いたわけですよ。私の方がそういう点ではよく研究してゐるんです。

建設省と交渉するときにどつちを選ぶかということと交渉したわけですよ。それで正木道路を選んだわけですよ。もう一つ田んぼの中を通るそういうのが四十四年に決定された都市計画道路なんです。だから、それに乗せるということと、昭和橋通りに乗せるということは違ふわけですよ。だから、昭和橋通りに乗せれば生活道路を、産業道路としてのあれをつぶしちゃりわけですよ。もう一本つくるなら話はわかりますけれども、つぶしちゃつて国道にするわけですから、これは大変便宜主義ではないかということとを質問したわけですよ。これはここで市長に言つてもあれですから、研究してみてください。違いますから。

それからもう一つは、昇格試験の問題で私が聞いたのは、九十四名の人を昇格させるのかどうかと、大学出てもつて八年、高卒で十二年たてば、大体経験を積んでそういう経験年令にきたそういう人たちを昇格させるんだから、全員昇格させるのがあたりまえだと思ふんです。

それを、市長はそうではなしに、全員は昇格できないと言つてゐるわけです。できないとすれば、試験制度そのものは差別し、ふ  
るい落とすと、九十四人の対象者の中から試験をして、試験にうか  
らなかつたやつは三等級昇格から落とすための試験だということを  
はつきりさせておる。

だから、この試験が人材登用するために、人材を掘り起こすた  
めにやられるならばいいけれども、具体的にはつきり点数が出て  
それに合格したものは昇格させると、しないものは落とすというこ  
とでこの試験は差別なんです。

職階制そのものが差別のあれですから、しかし管理職だつたら  
別ですよ。二等級そういうよりなところは管理職にするためにあ  
る程度人材をというなら話はまだわかりますが、三等級はそうい  
うあれじゃないんですよ。全員そういう時期にきて経験も積み、  
仕事もできるという人をつぱり給与の面でも保障してやるとい  
うのがあたりまえだと思ふんですよ。

もし、市長の言うように、そういう人材をつくるというなら研  
修制度をもつと十分に、時間と金をかけて職員を向上させる  
と、質的にも向上させるというのは研修でやるべきです。試験を  
持ち込んだら混乱させるだけです。そういう差別でものをやつた  
ら、これは私は長い間、三十年国鉄に勤めていて、自分がそうい  
う官僚主義的の強い国鉄の中で身にしみるほど味わつたわけです。  
職場の中に混乱を持ち込みます。試験制度をつくるのはかえつて  
マイナスになる。それを強調しているんです。

市長は、みんなと話し合つて物事をやつていくという考え方が  
非常に薄いんです。パイパスの問題にしてもそうでしょう。関係

者と話し合いをやつてないんです。学校統合問題にしても地域で  
本当にやつてないんです。だから、組合の方ではそういう職場の  
中に混乱を持ち込むし、お互いににらみ合うようなことが起こつ  
たんでは能率も上らないわけです。だから、市長と合意ができな  
いわけです。市長はそういう組合の言うことに耳をかさないとい  
う態度です。市長のそういうひとりよがりの独善的な態度は政治  
を破壊しますよ。私はそういう点を、ここで論議しても始まりま  
せんけれども、組合とよく話し合つて納得の上で職員からも協力  
を得るといふような方向で臨んでもらいたいと思います。

以上で、終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一八番議員君の質疑を終わります。  
三十分ぐらい休憩いたします。

午後二時 休憩

午後二時三十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一六番安西益男君。

（一六番議員安西益男君登壇）

○一六番（安西益男君） 四点についてお聞かせいただきたいわけ  
ですが、まず最初に六二ページの総務費の六目企画費で一節の報  
酬でございます。総合計画審議会委員報酬の件であります。こ  
の審議会は構成人員も非常に多く、これまでは二十三名、今回は  
二十名ということでございますが、今回館山市附属機関設置条例  
の一部改正ということで議会からの委員は削除されると、こうい  
うわけでございますが、なおまた他の審議会も一斉に除外という  
ように思いますが、この理由については執行機関と議決機関との

分離ということとございまして、問題は、審議会なり、委員会がこれまでに充実した内容の審議が期待できるかどうかということとございます。

総合計画審議会委員報酬は八万一千円、他の審議会の委員等も含めますればかなりの額になります。この報酬そのものは全く問題ないと思います。

これまでの例を幾つか見てみますと、知識経験者の方々はあまり発言なさらなかった。これは無理もないと思われるのは、当日説明書を渡され、そうして説明を聞くわけでございますから、多くの場合、議員の発言が多かつたように思われます。いずれも議会に関係のある議題でございますので、当然と言えばそれまでかもしれませんが、慎重審議をたてまえるとする審議会が十分審議されなければならぬし、安易に流れてはならないと思います。

そこで、議会からの知識経験者としての立場で参加できるのかどうか、この点を一点お聞かせ願いたいと思います。

次に、八七ページ二目国民年金事務費十九節負担金補助及び交付金の千葉県国民年金協議会負担金の内容でございますが、実は来年六月いっぱい最後の国民年金納付期間が定められておるわけでございますが、現在館山市ではかなりの人々がそれぞれの事情からこれまで納付の遅れておる人たちがおります。金額にして三千万ということとございますが、この人たちは今回の最後の納付期間内に納付できないと、今後老後養老年金等全くなくなるわけでございますので、年金を受けられる資格がなくなつてしまいます。

そこで、この期間内の納付できる制度の確立が必要であらうか

と、このように思ひわけでございます。この融資制度たとえば銀行等と相談して納付できるような制度の研究がこういった協議会等で行われておるかということ。県の国民年金協議会ではこういった問題を討議されたかどうか、そのことをお聞きしたいわけでございます。

次に、一〇九ページ衛生費二目じん芥処理費十八節備品購入費でございますが、これは自動車購入の中で側溝清掃車ジェットブラッシャー一台、モータースイーパー一台これを購入することになつておりますが、これの価額はどのぐらいでありますか。

なおまた、現在使用しております清掃車でございますが、だいぶもう古くなつております。故障も多くなつておるかと思ひますが、まだ若干使用が可能かどうか、可能だとすれば二台で作業をすることになるわけでございますが、相当能率も上るといふことになると思いますが、この見通しについてお聞かせ願いたいと思います。

一一二ページの同じく衛生費四目衛生センター建設費の十七節公有財産購入費三億七千万円、坪単位はどのぐらいか、造成しなくてもそのまま使えるのかどうか。なおまた、真倉の問題等ございましたので、住民感情とか、市民感情の上から購入過程について若干お聞かせいただければと、このようにお願いするわけでございます。

以上でございます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

今後、市議会議員さんが各種の附属機関の委員会、審議会等へ



参加できるのかという御質問でございますが、従来から委員会審議に当たりましては、議員さん方の果してきた役割は非常に大きなものがあるというふうに考えておるわけでございまして、十分御承知していることは存じますが、附属機関の委員の構成が変わりまして、多くの議員さん方の知識と経験を生かし、市政振興のため学識経験者として御依頼申し上げたいと考えておりますので、その節には御協力をたまわりたく、よろしくお願いしたいと思っております。

第二点、国民年金事務費に關連いたしまして、千葉県国民年金協議会がどんな仕事をしているか、活躍をしているかという御質問でございますが、国民年金に関する法律は毎年のように改正されて、その内容もきわめて複雑でございますので、県の指導もございまして、県単位の協議会、郡市の協議会をつくり法令、実例等について研究をしているところでございます。特に特例関係については対策を協議しているわけでございます。

こうした経過の中で、市といたしまして、五十三年七月一日から施行されました特例納付につきましては鋭意現状の把握と指導をしてまいっているところでございますけれども、現在までの完全未納者は二十五人でございます。うち二十人は生活保護者でございまして、将来も再起の見込みがない方でございますので、実質的な納付拒否と申しますか、納めていない方は五名でございますので、この五名につきましても今後とも説得を続けてぜひ年金を将来受け取ることができるようにしてあげたい。そういうふうに努力をしたいと考えております。

それから、じん芥処理費の備品購入費ジェットフラッシャー、

モータースイーパーでございますが、ジェットフラッシャーは千二百万円、モータースイーパーは五百五十万円でございます。すでに非常に古くなりまして故障も多く機能も落ちておりますので、今後とも使えるものならば使いたいと思いますが、おそらく使うことはかえつて不経済になるのではないかと思いますので、そういう意味で新しいものを買いかえたいと考えているわけでございます。

衛生センター建設費の公有財産購入費でございますが、買収予定面積十二万三千平米でございます。約三万七千坪程度になろうかと思いますが、坪当たり一万円程度を予定しているわけでございます。地主が三名でございますので、直接交渉をいたして購入をいたしたいと思っておりますが、そのままであれば早くには使えないかもしれませんが、しかし大体は平担でございますので、そう大きな整地費等はいらないかと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一六番（安西益男君） 一番最初の知識経験者ということで参加できるということでございますが、そういうことでございますので、重ねてこの点についてこれ以上申し上げません。

それから年金ですね。これは非常に少ないということですが、当初相当数あるというようなことでございましたので、できれば他市では銀行等とタイアップしてこの制度をやつておるといふことを聞いておりますので、館山もそういうことで一応御質問申し上げたわけですが、非常に該当者少ないということでございますので、どうかその人たちをなるべくいい方法をお考えいただいて

ぜひひとつ進めていただきたい。このように思います。

それから、清掃車これは相当年限がきて不能というよりなことでございますが、今回新しく購入される清掃車は性能も前回よりはもちろんよからうと思えますけれども、何年ぐらいこれで使用可能か、いままでの何年ぐらいたっておりますか、お聞かせいただきたいと思います。

○市長（半沢良一君） 四十八年六月にリースで購入といいますが、借りて使用を始めたわけでございます。確か昨年これを買い取つたと記憶しております。ですから約六年になるわけでございます。普通三年間が寿命のように考えます。

○一六番（安西益男君） それは大体わかりましたけれども、附属機関の設置の関係で、知識経験者で参加できるということでございますが、人員等は今後も検討されると思いますが、適材適所といえますか、そういう点では十分審議会が充実された内容でありますように、運びますために御努力をお願いしたいと思います。私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一六番議員君の質疑を終わります。次、一七番石井武敏君。

（一七番議員石井武敏君登壇）

○一七番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございます数点にわたり御質問をいたしたいと思えます。

まず第一点は、民生費中の八六ページ二十節の扶助費であります。六千二百八十三万六千円について、また九九ページの扶助費五億一千九百万円についてでございますが、これについての説明を求めます。これらの福祉施策事業は昨年度予算に比較してどの

ように進められて、予算的に配慮されているかということが質問の趣旨でございます。

施政方針に示されておりますように、四本の主要施策の一つが福祉社会づくりであります。今回この福祉社会づくりの中で特に強調されておりますのがコミュニティ、地域ぐるみの福祉活動であり、また心身障害者対策としての福祉作業所の建設であります。が、目新しいこれらの施策とは異なり、私は計上されているこれらの民生費中の扶助費、地味ではありますが、福祉の基本であるように思われます。

今回の予算の福祉の目玉また地域ぐるみの福祉活動や、福祉作業所の建設がちょうどピラミッドの頂点に当たるものとすれば、これらの扶助費による福祉施策はちょうどピラミッドの底辺に当たるものであると思われれます。これらの基礎的な底辺の厚みこそ福祉施策全体を支えている福祉の基本であると言えらると思えます。そこで、これらの福祉にかかわる事業は予算的に、内容的にどのような進展を見せているかという観点から御答弁をお願いしたいと思えます。

続きまして、老人センター内の施設の充実を推進していただきたいという要望を踏まえて、センター運営の運営費全般にわたって質問いたします。

ページは、九〇ページの老人福祉センター費でございますが、この予算の伸びは昨年度に比較をしまして一六％の伸びであります。が、運営の面で五十四年度力を入れていこうとしている点は何か。また施設、設備に関してはどうのように改善されていくのかの説明をお願いしたいと思います。

老人福祉法の中にあります老人福祉施設についての条文を見てみますと「老人センターは、無料または低額な料金で、老人に対して各種の相談に応ずるとともに健康の増進、教育の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的とする施設」とあります。また「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきたものとして敬愛され、かつ健全で豊かな生活を保障されるものとする」という老人福祉法の基本理念によるものであります。これらの基本理念が当市のセンターの運営面でのどのように具体化されているのか、御説明をお願いしたいのであります。

続きまして、一〇四ページ環境衛生費中の一節の報酬でございますが、公害対策審議会委員報酬について御説明を願いたいと思います。

この問題を質問します理由は、私は昭和五十四年度に取り組む公害問題のテーマは何か、どのような問題を取り上げていくのかという点に関心を持つからです。

質問として取り上げる予算の額としては低いんですが、この審議会で審議される内容は大変重要なものがあると思われれます。まず最近におきますし尿浄化槽の増加に伴う河川の汚染、海水の汚染対策をどうするかという問題。また家畜公害の対策はどうするか。また燃やせば有害ガスの出る農業用ビニールの処理対策について等、そうして食品の有害色素の公害に至るまでの生活環境から人命にかかわる幅の広い公害問題のどこに焦点を当てて進めていこうとするのか。当市の公害処理に対する方向を御説明願いたいと思います。

なお、公害問題に対しては、家畜公害の対策に関しては一九ページ四目十九節の家畜公害対策事業資金利子補給金についての説明を求めます。

また、農業用のビニールの処理対策に関しましては、同じく一九ページの農業振興費中廃プラスチック処理事業についての説明を求めます。この廃プラスチックの処理に関しては、さきの補正予算でも提案されておりますように、今回館山市園芸用廃プラスチック対策協議会の設置によりまして、合理的な処理を目指しているものと思われれますが、これについての具体的説明を求めます。

次に、教育振興費中に児童学習用器具材料費の計上がありませんが、これは義務教育費の父兄負担軽減施策として予算化していたものであります。予算化になっていた時期は昭和四十五年から昭和五十一年度までであります。これがいつの間にか予算計上がなくなり、そのままになって現在に至っておりますが、この義務教育費の父兄負担の軽減につきましては市長の基本的な考え方をお示しいただきたいと思うのであります。

以上、大きく分けてまして四点にわたり、一つは福祉施策について、二つ目が老人センターについて、三つ目が公害問題について、四つ目が義務教育の父兄負担の軽減について。以上、四点御質問いたしますが、簡明なる御答弁をお願いします。また御答弁により再質問をいたしたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。



八六ページ二十節の扶助費と、九九ページの二目の扶助費両方についての御質問でございましたけれども、八六ページ二十節の扶助費については心身障害者に対する援護扶助費は、前年度当初予算に対しまして一八・六％の伸び率となっております。九百八十六万九千円ふえているわけですが、身障者の施設入所対象者の増及び基準の改定によるもの。さらに心身障害児あるいは心身障害者医療給付扶助費の増、重度障害者福祉手当の支給額の改定等が主なものでございます。

九九ページ二目の扶助費について申し上げますと、生活保護費扶助費については前年度に対しまして二五・七％の伸びを見込み計上いたしているわけでございます。この伸びの要因は国の基準改定に伴うもの、重症患者による医療費の増等によるものがその主なものでございます。

老人センター費につきましては一六％の伸びとなっておりますは御指摘のとおりでございますが、センター内の備品類、施設の整備につきましては、利用される方に不便を感じないよう常に配慮しているところでございますが、本年度は放送設備の整備を図り、建物の維持管理に一層努めていきたいと考えて予算を組んだわけでございます。放送設備の交換に七万三千円、ボイラーの整備に十二万円、備品類座卓とか自動車等の整備に十七万七千円等を計上いたしましたわけでございます。その他の修繕費を七万九千円ほど計上いたしました。特に今年は自動車の借上料を前年度よりも十万円おやしまして、センターの専用のマイクロボスのほかにご利用者の便を図つて需要にこたえたいと、そういう考えてございます。

公害対策審議会はどんな仕事をするのかという御質問でございますけれども、大体委員は十五人ほどおるわけでございますが、年一回開催を予定をいたしております。

館山市公害防止条例による諮問事項は、第一点は特定施設、特定作業、特定建設作業を規則で定めるとき。それから第二点は規制基準を規則で定め、変更または廃止するとき。第三点は騒音以外の特定施設等に一時停止命令を出すときでございます。このような事項のないときは、館山市における公害について状況報告を行い、主として市条例で規制している騒音、振動、悪臭問題等について協議していただく予定であります。なお、その他日常の公害苦情処理等については関係課において協議し、適切な処理を行っておりますけれども、諮問事項等重要な問題が生じたときはさらに予算措置を講じまして、適正なる運営を図つていきたいと考えております。

廃プラスチックについての御質問でございますが、園芸用廃プラスチック処理事業については市内八カ所、これは農協各支店でございますが、そこを収集場所といたしまして、十五トンを目録に円滑な回収と処理を行うために補助金を交付するものでございます。

家畜公害対策事業資金の利子の補給金の問題でございしますが、多頭化飼育が推進されている反面、社会的に環境衛生がやかましくなり、ふん尿処理問題は畜産農家の大きな悩みとなつていのが現状でございます。今後の経営の安定はこれらが解決されることによつて経営の充実、拡大が図れますので、その解決の一施策としてビニールハウスによつて簡易な乾燥施設の設置に対して利

子補給を行うものでございます。

小中学校の教育振興費中児童学習用器具材料費がないがという御質問でございますが、これを廃止いたしましたのは昭和五十二年度からでございます。五十一年度までは各学校に児童学習用器具材料が備わつてきたわけでございます。そういうことで五十二年以降破損したものの等の補充で済みますので、以来これを予算に組んでいないわけでございます。でございますから、特に父兄に負担をかけるようなことはございません。

以上で、答弁を終わります。

○一七番(石井武敏君) ただいま御答弁をいただきましたけれども、何点か再質問をしたいと思います。

初めの民生費中の扶助費についてですが、これは御答弁にありましたように一八・六％の伸びを示しておるということでございますが、この扶助費中前年度なかつたものは、今年度上つてきたものは筋萎縮症者措置費というのが前年度の当初予算にはなくて、半ば補正予算でこれを組まれておるような経過がありますが、これは市内の該当者が何名いたのか、またその措置内容について御説明をいただきたいと思うわけでございます。

それから、公害問題につきましては、廃プラスチックの処理につきましては市内の八カ所から十五トンを目標に収集するということでございますが、いままでは廃プラスチックの処理は負担金として出しておつたわけでございます。今回制度的に充実をしまして補助金ということになつたわけで増額してあるわけでございますが、この廃プラスチックの処理状況は具体的にどのように改善されていくのか、たとえば、八カ所の場所が二十数カ所におえ

るとか、あるいは回数がふえるとかそういうようにどのように改善されていくのか、御説明願いたいと思います。

それから、廃プラスチック特に農業用ビニールの処理というのはほかにいろいろの処理の方法があると思いますが、どのような全体的なプラスチックの処理から比べて、廃プラスチックのところに載っている処理そのものは全体の中のわずかなパーセントであるように思うので質問するわけですが、一番多く行われている処理方法はどんなものがありますか、お示し願いたいと思います。

それから、老人センター費についてでございますが、ただいま御答弁をいただいたわけでございますけれども、老人センターは常に良好な状況におきまして管理をして、その設置目的に依じて最も効率的に運用しなければならぬというような条文があるわけです。これは老人センターの設置及び管理に関する条例の中に示されておりますが、現在老人センターの入浴施設の破損はないか、そうして耐用年数はどのぐらいみているのか、また条例を見ますと、入浴時間は九時から四時半までになっておりますが、これは現在このように入浴時間が行われているかどうか、確認したいと思います。御答弁をお願いします。

それから、学校教育費の中に父兄負担の軽減についてどのように考えるかということで御質問したわけでございますが、現在父兄が実費で、自費で購入しなければならぬ教材費、副教材費の額は一人当たりどのくらいみているか、お尋ねしたいと思います。

また、教材に関連しましてもう一点御質問しますが、これは監査が行われまして、昭和五十三年度の定期監査の結果の報告の中に、教材等の備品の充足状況について、文部省の教材基準に定め

るところにより整備されておりますが、五十三年度には文部省の教材の基準の通達が大変遅れたと、そのために各学校が苦慮したんだということがありますが、この教材基準というものは、聞くところによりますと、十年に一度改定され、洗い直され検討を加えられて新たに通達されるというように伺っておりますが、それに間違いないでしょうか。この通達の遅れた理由は何か、御質問します。

以上、再質問します。

○助役（小倉澄男君） お答え申し上げます。

民生費の筋萎縮症者措置費でございますが、これは市内一人でございます。それをただいま御質問にありましたように、昨年は補正で組みまして、これを本年度は当初から計上する。これは国立箱根病院に入院をさせることに相なっております。それに対してのものでございます。

それから、老人福祉センターの入浴施設の耐用年数でございますが、それから現在入浴を実施している状況でございますが、ちよつと記憶が定かでございますので資料を取り寄せます。

○経済部長（太田博雄君） 廃プラスチックについてお答え申し上げます。

この収集方法は期日を決めまして、各農協の支所に農民から集めるわけでございます。その運搬につきましては経済連のトラックによりまして、茂原に千葉組合廃プラスチック工業株式会社という工場がございますので、そこに運搬するわけでございます。運びますプラスチックと申しますと、農業用の廃プラスチックと、もう一つは園芸用の下に敷きます黒いポリエチレンフィルム

と申しますけれども、そのものを含めまして処理するわけでございます。

○教育長（安田豊作君） 父兄負担の軽減について教材費といいますが、父兄負担の器具材料費はどのぐらいかかるんだ、この詳しいデータを持ち合わせがないんですが、いま文部省が扶助費として要保護、要保護の子供に給与している学用品代は一年生が九千円、二年生以上が一万円小学校です。中学校の一年生が一万七千七百円、二年生以上が一万九千二百円これが最低といいますが、最低はすなわち標準だと思いますが、金額から言えば考えていたでいて結構じゃないかと思えます。

それから、教材基準の文部省からの示されるのが遅れたのはどういうわけかと、これは今年というより五十一年度で十年目が終わったわけです。五十二年に第二回目の教材基準が示されべきでしたが、文部省としてはいろいろ各方面の要望を聞いて慎重を期したために、五十二年を研究期間としてとつて五十三年に示された。五十三年の当初に当然示されべきでしたが、これがずつと遅れて二期期になつてきたと、こういう状態で基準はきたけれども、補助金の額が示されなかった。こういうようなことで購入が遅れました。

これはかなり大幅に変わりました。いままでは地図とかそういう非常に少金額のもので各教科別に基準が示されておつた。それによつて十年間に館山市としてはどの学校もこのパーセントをオーバーする充足ができておりまして、したがつて五十三年度の購入は少し待つようということ待たしておつた。今度はカラーテレビのようなものが各教室に入れられる。あるいはリコーの

ようなものを購入できる。こういう大きな機械が入れられるような基準が出ました。それが十年に一度の改正ということはどういうことでございますが、これは学校普通教育ですけれども、地域によつて教材の購入の額が差があつては困るんだ。文部省からいうと全国的に全部同じにしてやりたいということで、倍額を文部省が出して、半額を市町村が持つという法律をつくつてやつたのが第一回の十年計画です。本年から十年計画で十年たつと、いまの進歩からいうと確かに遅れますので、五年目というところを調整期間として一応区切つて見ると、五年目に一回見直して、改正する場合に改正する。こういうことで進んで五十三年度から始まつた。こういうことになります。

○助役(小倉澄男君) 先ほどの保留いたしました点につきまして御回答いたしたいと思ひます。

入浴の時間は、現在水事情によりまして週三回実施いたしておりますまして、時間は十時半から午後の三時まで週三回行つております。

それから、破損はしていないかという質問でございますが、現在換気扇の取りつけを整備を終了いたしましたので、本年度実施いたしましたので破損箇所はございません。

それから、耐用年数でございますが、はつきりした正確な耐用年数何年ということはないように考えられますが、大体十年ぐらゐが耐用年数ではないかと考えております。これも利用状況にもよりましようし、さらにボイラーの加熱状況等にもよるかと思ひております。なお、そういうことで今年度はボイラーの整備を一応予算化をお願いしまして、さらに万全を期していきたいという

ような考えでおります。

○一七番(石井武敏君) 第一点の民生費中の扶助費についてはぼぼ了解をいたしました。が、この扶助費の中の九九ページの方でございますが、これは生活扶助費、住宅扶助費、教育扶助費、医療扶助費についてでございますが、これは生活保護費を受けている人々が、住宅を欠いておれば住宅扶助費、学校に行く子供がおれば教育扶助費、病気になるれば医療扶助費というように関連があるんですが、この扶助費は国から示されまして、国の基準に従つて支給をされていると思ひますが、国の基準を見ても非常に非常に低いように思ひます。

館山市は、基準としましては第三級地ということで指定されておると思ひますが、その国の基準を見ても、一カ月に一歳から二歳までが一万一千百円、三歳から五歳までが一万三千七百四十円、ずつと飛びまして二十歳から四十歳までが二万二千七百四十円、四十一歳から五十九歳までが二万一千二百円、六十歳から六十四歳までが一万九千九百四十円というようになっております。この中に食費、衣服、嗜好品、電気、水道いろいろのものが入つていゝと思ひます。この中になお冬の場合にはこれとは別に加算されているわけでございますが、これは館山の場合の基準を見ますと、冬は燃料をよけい使いますので、一人当たり千九百九十円加算されております。二人になりますと千五百円、三人になりますと千八百十円というように人数によつて加算されてきていゝと思ひますが、私はこれらのあくまでも国の基準により、国の方の支給ということなんですが、非常に低いように思ひます。なんです。いゝわゆる食費を見ても、生活内容の程度を見ても低いように思ひ

ますので、こういう点を市当局はどういうように考えますか、その考え方を示し願いたいと思います。

それから、家畜のし尿対策事業資金利子補給金でございますが、これは了承いたしました。

それから、もう一つの廃プラスチックの処理の仕方でございます。ただいま御説明ありましたように茂原の方に運搬をするということでありますが、茂原の方で処理している方法はどういう方法で行われておりましたか。プラスチックの場合は焼却をすれば悪臭、ばい煙を伴い、焼却炉を破損し、地下に埋めれば分解せずに永久に残つてしまふという非常に処理しづらいものですが、茂原の工場はどういう処理をしておりますか、御質問をいたします。

それから、老人センター費についてでございますが、ただいま御説明にありましたように、現在の水事情によりまして週三回、十時半から三時までを入浴時間としていたということでございますが、これは水事情が良好な状況になつたときには、この条例にあるような九時から四時半までに回復するんでしうか、この点を念を押しておきたいと思ひます。

それから、教材費の父兄負担の軽減についてでございますが、これはただいま教育長から御説明あつたのは要保護のいわゆる生活保護を受けている児童に関するデータだと思ひます。一般的に父兄負担の現在の額を見ても、まだ高額のように思われるわけでございますが、この点はよろしく検討をしていただきたいというところで要望にとどめて質問は終ります。

○助役（小倉澄男君） 第一点にあります生活扶助費につきまして

お答え申し上げたいと思ひます。

石井議員が申されたとおりの額でございますが、いわゆる生活扶助費の基準額の算定の基礎は、総理府による家計調査これによりまして、大体一般勤労世帯一人当たりどのぐらいかかるかというのが出ております。それが五万八千二百五十九円でございます。それによりまして厚生省による被保護者生活実態調査をいたしました結果が三万四千五百四十四円でございますが、その格差を是正していくというのが大体基準算定の基礎でございます。それに対してしまして大体最高六〇％までの差を補助をしていくというのが生活扶助費の根本的な方針でございますので、市といたしましてはあくまでも国の基準に準じまして、これを行つていきたいということでございます。なお、先ほど嗜好等が入つておると、嗜好はこの基準の中には入っておりませんので、そういうような嗜好や娯楽等を除いたという意味で六〇％近づけるといふのが根本的な精神でございます。

それから、老人福祉センターの入浴関係でございますが、これは水事情が解決いたしますならば、従前どおりの時間でこれを実施いたしていきたいということは間違ひございません。

○経済部長（太田博雄君） 廃プラスチックの処理方法でございますが、具体的な面でちよつと説明できませんけれども、聞いておりますのは熱処理によつて処理いたしておるそうでございます。

またこの処理によりまして舗装用あるいはリ字溝の資材等の再生品のものができておるといふことを聞いております。

○一七番（石井武敏君） 生活保護費につきましてでございますが、市当局の考えがただいま御答弁がありましたように、基準額が十

分であるというような見解に立たれておるように思うわけであり  
ます。

この館山のいわゆる基準額、これは第三級地ということになつて  
おりますが、これは県内を見ますと、どことどこまで三級地にな  
っているのか。たとえば広い範囲の三級地という指定であれば  
大変物価とか、いろいろの状況で格差があると思うんです。そう  
いう点でお聞きするわけですが、三級地という指定は千葉県のど  
こどこなのか、教えていただきたいと思ひます。

それから、老人センター費につきましても、これは了解いたし  
ました。

それから、廃プラスチックの処理方法これも了承しました。

なお、公害対策審議会におきましては、審議する内容が騒音と  
振動ほとんどほられておるということ。また十五名の委員で年  
一回の開催であるということで、大変問題が大きいわりに開催数  
も少ない。そういう感じがしますが、なおこのへんは御検討をい  
ただきたいということで質問としては打ち切ります。

以上、お願いします。

○助役（小倉澄男君） 三等級はどこかということですが、  
はつきりした資料は手もとにございませんが、私説明を受けた範  
囲では、市では三級地は館山市、鴨川、木更津が三級地になつて  
おるそうでございます。なお、参考までに一級地は千葉、市川、  
船橋と、二級は八日市場、成田等が中心の大都市でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一七番議員君の質疑を終わります。  
次、一四番石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）

○一四番（石井輝久君） 最後の質問でございますから、簡単にい  
たしたいと思ひますけれども、しばらくの間、お疲れのところ恐  
縮ですが、お許しをいただきたいと思ひます。

今次定例会に提案されております昭和五十四年度一般会計歳入  
歳出当初予算八十億二千三百万円の内容だけに限つて質問申し上  
げます。

思えば、この質問が通告による質問としてはこの任期中最後の  
ものとなるわけでございます。さきにも申し上げました今次定例  
会は、私ども議会人にとつて四年間の任期がいま終えようとして  
いるという重大な関頭に立つていたのであります。

また同時に、今年は西暦で申しますと千九百七十九年、要する  
に七十九年でありまして、二十一世紀の一步手前にさしかかろう  
とする八十年代を来年に控えているわけであります。

つまり、この八十億を超える予算案が七十年代最後の七十九年  
の三月議会で可決されることとなりますと、八十年代にすなわち  
昭和五十五年一月以降に施行して執行される予算案であるとい  
うところに非常に意味を含んでいるという見方も成り立つと思ひ  
てあります。

さきの一般質問で申し上げましたとおり、もう一つは、二期目  
に入つた半沢市長がつくられた手づくりの予算案と申してもよろ  
しいかと思ひますが、以上のような観点の上に立ちまして内容  
を見ると、総論的に言えば館山市政を将来にわたつて展望しな  
がら、よく積極的にもろもろの施策に取り組まれたと言へるので  
はないかと私は考えるのであります。その積極さのゆえに総論的  
に背伸び予算という見方もできるのではないかという見方もある



のではありますまいか。以下、具体的に質問いたします。

第一点は、三〇・七％の伸び率を示されたのは、思い切った施策への意欲的な取り組みをなされた半沢市長の姿勢がにじみ出ているものであります。さきに、私はこの伸び率は高過ぎるんじゃないか、大丈夫だろうかという意味の質問をいたしました。

市長は、答弁で国の地方財政計画をやや上回ったと言われました。三〇・七％という伸び率は国の地方財政計画をやや上回ったと言えましようか、それはとんでもない日本語の表現と言わなければなりません。地方財政計画はいくらだと思いいになつておられるか、二五％ないしは二七・八％とも言われるのでありましようか。それならば、やや上回ったと言えましよう。地方財政計画の伸び率を質問したいところですが、それはやばいというものがございますので、こちらで申し上げますが、国の地方財政計画の伸び率は一三・一％のほずであります。二倍で二六・二％ではありませんか。やや上回ったなどというものではない。二倍以上。国家財政の伸び率は前年対比で一二・六％、県の財政の伸び率は一七・七％これらに比べるとやや高いのではなく、異常に高いと言えましよう。しかし、その是非を論じようとするものではありません。

ただいまも申し上げましたように、二期目に入つた半沢市政の積極姿勢がこの予算額となつて示されている点、私は率直に評価しております。

伸びの理由として、衛生センターや中学校学校建設にあることは十二分に承知しております。ただ、国の財政でも赤字国債が大きき問題となつてゐる。市でも市債が十二億六千八百四十万には

ね上つてゐる。市長は同僚議員の質問に返還は大丈夫と答へに  
なされた。

そこで伺いますが、借金の元利返済額というべき歳出面の公債費が五億円を超えているのでありまして、この公債費の漸減方針を含めまして、市債の返還はどのように大丈夫なのか返還計画を年次別にお示しいただきたいのであります。

また、予算は申すまでもなく、入るを圖つて出るを制することが眼目でありましよう。入るを圖るといつても、何でも借りてしまえばいいというものでもありません。歳出面で何とか増収の道はなかつたのか。たとえば、いずれの税目にしろ課税標準額を改め増収を圖るとか、使つていない市外の学校の用地が市内に数多く点在しておりますが、この土地に数多く課税するとか御検討の余地はなかつたのか。この問題は過去におきまして検討されるというお答えをいただいたこともありましたが、当初予算編成にあつてどのようにお考えになつたのか伺います。

歳出面では前納報償金、これは七〇ページでございますが二項徴税費中、七二ページの二目賦課徴収費中八節に示されている八百十四万四千円であります。その上にございます納税組合奨励金一千三百五十六万一千円については一応触れないことにして、前納報償金の扱いの検討などがそろそろ問われているのではないかと存じます。私は前にもこの点について質問いたしましたし、新聞報道によりますと千葉市でも検討段階に入るとのことでありま

す。そこで、次に具体的問題として第二の質問に入ります。これ

も一般質問と関連しております。

一七ページの第二表継続費衛生センター建設費十四億七百二十万円についてでありまして、これは予算書中一一一ページ並びに一八八ページにそれぞれ出ております。

そこで、私が質問しようとするのは、全体計画のうち当面の五十四年度六億六千四百四十万円のうち衛生センター本体工事、この本体工事の中には屎処理施設建設事業工事と取水施設工事があつたわけでありまして、それぞれに分けて、また土地購入費等々にわたりまして財源内訳を示していただきたい。これは国県支出金一億一千百十六万六千円と記載されておりますが、国庫と県費に分けて予算額を提示していただきたいと存じます。

さらに用地確保について先般質問申し上げましたが、それに関連いたしまして質問を進めます。確保しようとする用地の面積は十二万三千平方メートルとのことですが、この面積は必要最小限の面積と理解してよろしうございますか、伺います。

次に、市は県の指導に従つて処理水を放流しようとしているのでありましようか、それが一つ。それとも県の指導があつても場内散布方式をとらうとしておられるのか。その方向を簡明にお答え願いたいのであります。

また、同僚一五番議員の先ほどの質問とも若干関連いたしますし、先般も御質問申し上げたことにも関連いたしますが、私は脱窒素を初めとしていささか公害面で不安を感じていることは何回となく発言しておりますので、ここでは深くは触れないようにいたします。

ただ、先般の質問でP日の数値は五・八から六・〇とお示しい

ただきました。が、アルカリ度の質問に対してお答えがなかったもので、再度参考のためにアルカリ度の数値を伺つておきます。これは脱窒素の化学反応を判断する資料ですので説明はいりません。数値だけ伺います。

さらにまた、これまた先般の質問でも触れましたが、ここで国の補助対象となつてゐるフローを具体的にあげてこれらのフローごとに国の補助金の額がどの程度見込まれてゐるのかということについて簡単に御説明を承りたいのでございます。

それから、先般の質問で、この機種に契約と相反する点を数値を示して指摘したのに対しまして、市長はそれぞれ適当でないとし、またあまり適当でないとの表現方法で答弁しておられました。が、少なくとも8日にしても、トータル窒素にいたしましたも、契約数値と実際の稼働数値との相違、つまり適当でない数値しか出してゐない機種を適当でないとしながら採用に踏み切つてよろしいのかについて、本当のところどんな動機で採用されたのか、明らかにしていただきたいのであります。

第三の質問に移ります。これもまた先般の発言中で触れておりますが、民生費中福祉作業所の建設事業費千六百七十九万五千元に関連して福祉行政について伺います。

さきにも申し上げましたが、私どもは千九百八十年代に地方政治で求められる大きな課題は、福祉の充実、環境の整備、教育制度の全般にわたつての改変、この三つが柱になると考えております。この三点の充実こそ二十一世紀に向かつて生きがいある地域社会つまり生きがいある館山の建設につながつていくものだと思つて私どもは訴えてゐるのであります。

これは私どもの所信でありますから、市長の答弁を求めるつもりはありませんが、いみじくも半沢市政は、身障者の専用住宅建設を当年度追加予算に計上しようとしてされており、いままた福祉作業所を来年度当初予算に計上されようとしておられます点、福祉の前進と評価しております。

そこで、先般市長からお答えをいただいておりますが、今後具体的に市長はどんな福祉行政を市政の中で展開されるおつもりか、伺いたいのであります。相互扶助として本当に困っている人に手を差し伸べようとする市長のお考えについては十分理解するにやぶさかではありません。それは一般論としての理解でありまして、こういうことを行政の中で取り上げたい。たとえば、身障者用の住宅を建てるとか、福祉作業所を建設するとかといったように具体的にお答えをいただければ幸いであります。私は、社会的弱者に対するいたわりの心が市政の中にウエイトをより多く占めていくことを期待しながら質問するものであります。

最後に、教育費中放送センターの有線テレビ教育を廃止しようとする提案がなされている点について質問します。

放送センターの構想は、半沢市政の前の本間市政の目玉の一つとして誕生したことは申すに及びません。その目的は、市内の小中学校の教育内容にアンバランスがある。農漁村部の教育内容は北条、館山地区に比べると、どうしても劣るおそれがあるので、この格差を是正しなければならぬ。不公平を是正しなければならぬというアイデア、発想のもとに本間前市長が発足させたものであります。農村部出身の本間元市長らしい発想といつてもよからうと評価されました。それがいま廃止されようとしている。

テレビによる放送教育は廃止される。それにかわってテレビを持ち込んで教育の資に供するという方法に改める。質的に全く違ってしまうことになる。

そこで、具体的に伺いましう。一体この放送教育は果して実があつたのか、実が上らなかつたのか。この点、端的にお答えいただきたいのであります。

簡単に結構ですが、教育においてその考えが本間前市政の否定につながると思われるのであります。どんなものかお答え願います。

また、この廃止ということとは、当年度当初予算中一五二ページ十四節使用料及び賃借料伝送ケーブル及び可搬型変調器使用料、この使用料が教育放送の根幹をなすものであります。これが五十四年度予算から姿を消してしまうことなのであります。このことによつて、つまりこの予算を削除することによつて、教育以外の市民生活に波及するところはないかについて質問します。以上は安田教育長によるであります。私が、私はさきの通告質問の冒頭で発言しましたように、本間前市政よさうならということをは言しております。これは私だけの発言であります。私の理解をもつてするならば、この有線放送教育の廃止こそ本間時代からの訣別であり、本間色は市政から消え去り、終りを告げることになると思うのであります。市長の御所見を伺つて演壇を去るものであります。

御答弁によりまして、再質問いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後三時四十三分 休憩

午後四時 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 石井議員の御質問にお答えをいたします。

地方財政計画の伸び率と本予算との伸び率の相違といったことの御質問がございましたけれども、五十三年度当初予算と五十四年度当初予算を比較いたしますと、三〇・七％の伸長率でございますが、本議会におきまして提案審議をお願いいたしております五十三年度の補正予算との比較では九億四千六百万円の増加となつて、伸長率も五十四年度の地方財政計画の伸長率一三％を少し超える一三・三八％でございます。先般の通告質問にもそういうふうにお答えしたように記憶しておりますが、来年度の当初予算と本年度の補正予算をわち決算見込みとの比較が一三・三八％でありますと申し上げたつもりでございます。

御指摘のように、五十四年度の当初予算の中では建設費が大幅に伸びているわけであります、これは五十四年度、五十五年度の二カ年で実施される予定の衛生センター建設事業や、第三中学校の校舎の新築等の大きな事業が計画されているわけでございますので、この二つだけでも九億九千二百七十九万円がふえている。このために大幅な伸びになつてゐるわけでございます。

市債の返還計画を年次別というお話であります、現在の制度がこのまま続きますと、六年後の昭和六十年の公債費の構成比は七・一％程度になる見込みでございます。なお、今後も財政状況を勘案して繰上償還等を含め、公債費の漸減について十分考慮

していきたいと考えてゐるわけでございます。

今後の公債費の構成比の見込みは、これは不確定要素が非常にございますので、的確なことは予想できませんけれども、おおむねこんなことになるだろうと、そういう数字を申し上げたいと思つてゐます。五十四年度は御案内のように六・二％でございます。ただしこれは繰上償還の一億三千七百四十万を除きますと四・五％になるわけでございます。五十五年度は五・三％、五十六年度は五・九％、五十七年度六・三％、五十八年度六・六％、五十九年度六・九％、六十年度七・一％でございます。先ほど申し上げましたように、市債が政府資金あるいはそれに準ずるものによるか、あるいは繰上償還によるか等いろいろ不確定な要素もございまして、はつきりの確なことは申し上げられませんが、以上申し上げましたような数字になる見込みでございます。

市税の増収についての課税方法の検討をしたかどうかというところでございますが、昭和五十四年度の予算編成にあたりまして、課税に対する基本的な姿勢としては、適正かつ公平な課税をいうことで昨年来農産所得の把握としてビニールハウスの作付面積内容あるいは夏季茶店、民宿等従来なかなか正確な調査が困難でございました業種についても、税務署の指導の中で実施してまいりました。いずれにいたしましても、現行法によるものを基本として課税客体の正確な把握に努め、市税の増収に努力してゐるわけでございます。

お話のございました臨海学校等については昭和五十一年、五十二年にわたり現況調査あるいは学校当局に対しての利用状況報告書の提出を求めるなど一斉調査をいたしたわけでございますが、

地方税法第三百四十八条二項九号の学校法人等の非課税の範囲に該当するものとして、課税の対象とはならないものであることは前回御報告したとおりでございます。

税の納期前納付報償金についてでございますが、御案内のように税の納期前納付に対する報償金は、地方税法で百分の一以内で市の条例に定める事で計算した額を交付することができることになつてゐるわけでございます。館山市におきましては五十年四月一日まで百分の一でございましたのを、百分の〇・八にいたしました。また五十一年四月一日には対象税額を一期五万円を限度とするというふうに改正を行つてまいりました。千葉でこれを廃止するという方向に向いてゐるような御指摘がございましたけれども、ただいま市といたしましては、やはり納税を奨励すると、そういう意味でこのまま続けていきたいというふうに考えております。

衛生センターの建設費につきましてでございますが、その財源の内訳を申し上げますと、本体工事は国庫補助金が八百二十二万円、取水施設工事が三百九十万円、土地購入費が一千百三十三万三千元、事務費が二十一万三千元でございます。

果費につきましては本体工事が一千二百八万三千元、取水施設工事が五十八万五千元、土地購入費が百七十万円、事務費が三万二千元でございます。

したがしまして、国庫補助金は合計九千六百六十六万六千元、県費補助金が一千四百五十万円でございます。本体工事は国庫、県費合わせまして補助金が九千三百四十万三千元、取水施設の工事が合計四百四十八万五千元、土地購入費が合計で一千三百三

万三千元、事務費が合計で二十四万五千元、国庫、県費両方の補助金の総額が一億一千百六十六万六千元でございます。それ以外は起債及び一般財源でございます。

放流するのかどうかというお話でございますが、放流を目標といたしておりますけれども、放流先の了解に時間がかかる場合は散布も考慮いたしております。現施設の状況からいたしまして、昭和五十六年度にはぜひとも稼働させなければならぬわけでございますので、二つの場合を考慮いたしてゐるわけでございます。

反応槽内のアルカリ度の御質問でございますが、生し尿の投入時点と酸化の進んだ時点ではかなり差が出ますけれども、平均して一五〇〇PPM前後でございます。御案内のように投入時は高くなりますし、酸化進行時は低くなるという現象があるわけでございます。

フローシートと国の補助関係でございますけれども、前処理、次に一次処理でございますが、これは反応槽、分離槽、遠心分離機等でございます。次に二次処理これは凝集沈でん、砂ろ過等でございます。その次に高度処理を行うわけでございますが、これについては補助金の対象にはなりません。二次処理の次に滅菌でございます。さらにそのほかに汚泥処理、脱臭、管理棟、電気、計装、構内道路、門扉等の諸設備についても補助対象となつてゐるわけでございます。いずれも三分の一の補助があるわけでございます。

IZ方式をなぜ採用したかという御質問でございますが、これは最も低希釈であるということで館山市に一番ふさわしいということが一つ。総合的に見まして他の施設よりも除去率が最も高い



ということが一点でございます。それから第三点といたしまして国の技術審査をパスし、補助対象として認められていながら、この三つが採用の動機の主なものでございます。

今後の福祉政策をどうやって行っていくかという御質問でございますが、考え方といたしましては、社会的に最も恵まれていない方を重点に福祉を進めていきたいと考えているわけでございますが、現在のところ施設といたしましては保育園の改築を計画いたしました。新年度まず九重保育園を予定いたしました。その他の園並びに保育園についても今後改築を現在考えている段階でございます。いずれも防災対策あるいは環境整備等の観点からこれを行おうとするものでございます。

その他、特に施設をつくるという考えは現時点ではございませんけれども、施設の入所を適当とする方々に対しましては、この入所を促進させていきたいと、そんなふうに考えているわけであります。

それから、放送センターの件に関しまして、本間市政批判ではないかというお話がございました。私は再び申し上げておりますとおり、本間市政を継承してそれを発展させるべく努力をしてきたところでございますが、やはり世の中がどんどん動き、進んでまいりますと、市民の行政に対するニーズも高まっておりますので、そうした中でいままでの政策をより発展させ、効果あらしめる、そういう見地から有線テレビの問題についても考えて今回の措置をとったわけでございます。

そういう形からすれば、本間市政の離脱だと言えないこともないかもしれませんが、基本的な考え方としては、ただ

いま申し上げましたように、さらに有効にこれを発展させていくと、そういう考え方をしているわけでございます。

し尿処理場の用地の確保したいと思っております面積は、十二万三千平方メートルでございます。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 教育放送センターの有線の廃止について具体的な点をどういうことで二つばかりお答えしたいと思えます。

その第一が、いままで有線を使つて実があつたかという点でございますが、いままでにも再三お話が出ているように校長会、その他諸会合を一々市内の校長が集まらないで有線を使つて打ち合わせ、協議ができたという点、これは一人一人の旅費を計算すれば経済的にも効果のあつた点だ。こう思っております。

それから、教科の指導の中でどういう実が上つたかという点、技能教科で特に習字のような教科は、習字の達人の先生が有線を使つて指導することによつて各学校の差をなくす指導ができたという点。

それから、第三に、有線を使つて漁村、農村、都市の子供が同じ勉強を線を使つて話し合うというような学習もなされたわけで、この点は市内の子供の連帯感を強めるといいますか、あるいは各地域の様子を子供を通して話し合えるという点で効果があつたように思っております。そういう点が大きな点だと思えます。

線を切ることによつて、一の会合はできないと思いますが、技能教科の指導、その他はテレビじゃなくて、ビデオの搬送によつて可能であるし、連帯感の点はすぐ話ではできないという点はあるかもしれませんが、ビデオによる交歓もできるわけでございまして、



完全にはできないけれども、その点はある程度カバーできるといふ点は計算してみただけでございます。

それから、本間前市長が目玉としてやつたんだが、その点否定にはならないのかという点でございますが、これは実際に学校での、教室での利用の頻度の調査をしてみますと、ここから流しているテレビの受信とNHKの内容を受けるのでは大体同じでしなれども、NHKの方がやや多いという実態でございます。そうしますと、有線を切つてもこの点半分は救えるということでもあります。NHK及び千葉放送の視聴によつて学習できる。

それからもう一つは、本間前市長がこれを施設したその目的は有線を引くというそれ自体ではなくて、学校教育の内容的向上という点から見れば、いま言つたようなことから有線を切ることによつて、カラー化することによつて教育内容の向上では、本間市長の意図を汲んである。むしろ線の行き方は違ふけれども一歩前進だ。県の方にこの件を報告し、協議いたしましたら、県としては視聴覚ライブラリーとしての内容の充実であつて、むしろ一歩前進と見られるんじゃないかというような話も出ていたことでございます。そういう点で、市長からいまま答へがあつたように時代に即した方法で一歩前進の方向で歩んでみたいという点でございます。

それから、さらにつけ加えますならば、使用料の問題でございますけれども、当初この設置のときに、文書の中にメモ的ではございますけれども、残つてゐる点を探つてみますと、月七十五万で使用料をといた話が当初設置のときにありました。そうしますと年間九百万円でございます。それが設置していよいよ契約の段

階になりますと千四百四十万ということで、これを一年間九百五十万に特別まけていただいて、そうして一年後には千四百四十万にするという契約で発足しております。それが現在では千五百三十六万という金に上つてきております。これはときどき三回の値上げ、こうなつてきておりますが、これがさらにカラー化すると、新しい契約を結んでみなければ本当のことはわかりませんけれども、他から推測しますと五〇％アップの二千四百四十万になるだろうという憶測から、この際カラーテレビにかえた方がより効果的であろうと、こういう考え方方で有線を切るということになつた次第でございます。以上。

○一四番（石井輝久君） 再質問いたします。

最初の、市債の年次別に返還計画をお示し願いたいという御質問申し上げたんですが、パーセントで五十四年度から六十年度に至る間のお示しがございましたが、この点は不確定要素もございまいし、それから質問は打ち切りますけれども、これでは大丈夫かという確信が持てないような感じがいたします。市民として若干の不安を感じるといふことを申し添えて質問を打ち切りますが、とにかくせんのだつての御答弁で五十三年度の最終予算、つまり決算見込み七十億ですが、これとの対比ではなるほど一三％、そういうふうにお答へになつたそうですが、私はあくまでも前年当初との比較です。質問はそういう質問。

それから、国の地方財政でも最終予算と次年度の当初予算との対比なんて財政計画はないですよ。国の、たとえば財政の伸びと、いつでも、決算と当初予算との対比ではなく、この対比を用いて私は質問したのは、私が去年あるいはおとしでしたか、伸び率

が非常に低いし、前年度の決算からいくとマイナス成長ということとを私が質問したことがあります、そのときは決算見込みと当初の対比ではなくて、当初対当初の対比でいくんだというお答えをいただいておりますので、お答えがちがうなっているわけです。いいです。この点は質問を打ち切ります。

それから、私が以下財政の点、御質問申し上げましたのも、とにかく御努力わかるんです。御説明いただいたように、課税客体の正確な把握に努力なさっております。この点は打ち切りますけれども、なお一層課税客体だけではなくて、歳入増を鋭意御研究なさいますように希望を申し上げて、この点は質問を打ち切ります。前納報償金につきましても、市長は続行したいということでございますので、若干の考え方は持つておりましたが、市長がそのようにお考えなら申し上げることはございません。この点も質問を打ち切ります。

衛生センターでございますけれども、これはわざわざ衛生センター本体工事の中にし尿処理施設建設工事と取水施設工事があるんで、これをそれぞれ国庫補助、県、市債、その他、一般と、こういうように御説明いただきたいというふうに御質問申し上げますが、し尿処理施設建設工事についての計数がございまして、ただいま国庫と県費だけ分けて御説明いただいたんですが、し尿処理施設建設工事に対する市債、その他、一般財源。取水施設工事に対する市債、その他、一般財源。土地購入費市債、その他、一般財源この数字の御提示がなかったたので、私としては正確なお答えにはなっていないというふうに判断いたしますけれども、これ言つたつて別に時間がたつただけですから、この程度で打ち切

りますが、その他の三千八百万というのはどういう財源内訳か、ちよつと御説明たまりたいと思います。

それから、その次に用地の面積の十二万三千平方メートルを確保しようとしているという御説明は、前回御答弁いただきました私承知しておりますが、私の質問はこの十二万三千平方メートルが今回設けようとするし尿処理施設にとつて必要最小限の面積でございましょうかという御質問でございます。この点、もう一べん明確にお答えいただきたく存じます。

それからあと、場内散布か、放流かということでは、両面考慮されておられるというお答えでございますから、これでよろしゅうございましょうけれども、県の指導はあくまでも放流、暫定的に場内散布このように理解をいたしております。

そこで、再質問いたしたいのは、放流に切りかえるめどをいつ頃に定めておられるか、野放図に暫定の場内散布というのはお考えになつておられないであらうということは、私は善意にそのように理解をいたしますけれども、しからば、めどをどこに求めておられるか、お聞かせ願いたいと存じます。

それから、その次のあの機種の各フロアについての国の補助金の金額の御提示を求めたんですが、それぞれのフロアに対する金額の御提示ないんですけれども、あとでまたお聞きをすればよろしいので、この点は質問は打ち切ります。

それから、次の質問ですけれども、前回も申し上げました。私は数値を示してSS、それからTNつまりトータル窒素、これは市長も答弁されておりますけれども適当でない。契約の数値これこれを保証しますよという保証値を、実際稼働して検出した数値

とは、全く契約と稼働数値の違いがある。これは事実です。この事を認めたからこそ、適当でない数値であるという御答弁を先般いただいた。

ただいまの御説明ですと、あの機種は低希釈で最もふさわしいこれもわかります。除去率が最も高い、これは御説明として承りますけれども、それから補助対象として国が認めた。これは国が認めたやつはいっぱいあるけれども、三つの条件という中には必ずしもあてはまらないと思いますが、除去率が最も高いという点に對する私は学問的な解明がないというふうに思っておりますが、しかし御説明によりますと、それは文書化されて除去率が高いということが定説として取り上げられておるといってお話ですから、それは平行線になつてしまいますから、その点は別といたしまして、要はあの機種が實際動いて検出された数値と、契約をしている数値との違いがあるというこの事実は否定できないにもかかわらず、踏み切つたのはどういうわけか。市長も適当でないとお答えになつておる。先般の私の質問に對して適当でないにもかかわらず、低希釈で最もふさわしい。保証値も保証できない。契約違反、違反とまで言わなくても契約に背馳している。少なくとも合致してないという事実として数値が示しているにもかかわらず、これは言葉の表現、何といひますか、この点再質問いたします。

市長がいま言われた低希釈、除去率が最も高いという点、厚生省が補助対象として認めたという点、この三点は私も承知しております。除去率が最も高いということは言葉として承知してはおりますけれども、この点につきまして、要するにあの機種が契約

したものを保証していない数値、その点について鎮山でもあれですよ、どういふ契約されるかわからないし、先般のお答えで保証期間三年程度設けるといふお答えですから、その点は安心して稼働してもいいでしょうけれども、五所川原で例があるんですから保証契約を結んだ数値と稼働した数値と合致してないんですからこれは不安を感じるのは市民として当然だと思ひますよ。この点簡明にお答えいただきたいと存じます。

次の福祉行政につきましては、私は入れものだけではなくて、ただいまお答えをいただきましたしまして私はある程度満足しております。ただいま保育園の改築等につきまして御説明がありました。一層福祉政策に取り組み、社会的弱者に手を差し伸べるいたわりの心を市政の中に反映していただきたいということを要望いたします。この点は質問を終わります。

次の放送センターでございますが、これはちよつと奥歯に物がはさまつたやうな質疑になることは当然です。しかしこれはよく御答弁なさつていて、あとで会議録をお読みになつて、それから出発当時の会議録を引つ張り出してお読みになつて、この矛盾をお感じにならないのか、おそらく矛盾をお感じになると思ひますよ。

いま、私は実が上つたのか、上らなかつたのか。実が上つていたら、これは続行しなければならぬ。実が上つていたらけれども実はやめるんだと、その理由としては予算が千五百万とかいろいろあります。もうこれはいずれ可決確定されることになるでありません。それから、これ以上そんなに言いませんけれども、ちよつと矛盾がありますよ。

現場でも実際聞いてみても、なんだせつかくやつたのに、おれら苦労していまになつて、まさに朝令暮改の、朝令暮改というの  
は行政面で大体いうんですけれども、これも朝令暮改の典型です  
よ。前の市長がよかれかしとやつたのを、ここでぶつた切つて終  
つちやう。今度白黒からカラー化して持ち込んで教育して、しか  
もやめることが一歩前進であると果が言つたと、やめることが一  
歩前進だと、明らかに矛盾を感じますよ。しかし長くありませんし、  
言つても平行線ですから、この点は不満足ですけれども、質問は  
打ち切ります。

ただ、これによつて教育以外に他に波及することはないんでし  
ようかということを伺いましたんですが、いま千五百三十六万円  
が云々というお答えしかなかつたので、これを打ち切ることによ  
つて教育以外になにか市民生活に波及することはないでしやうか  
という質問についてお答えをいただかなかつたので、この点再度  
御質問を申し上げます。

市長のただいまのこれに対する御所見でございすけれども、  
これも奥歯に物がはさまつちやいますので、これ以上は質問をい  
たしません。ただ、市長のそれこそいみじくも本間前市政から離  
脱と言えなくもないという表現を使つてのお答えてございすが、  
それ以上は求めません。あまりやつても、この質疑に限つてだけ  
言えば意味がそんなにあるとは思いませんから。

以上、再質問いたします。

○市長（半沢良一君） 用地の件でございすけれども、必要最小  
限かどうかというお話でございすが、この間も御答弁申し上げ  
ましたように、放流で一万五千平米から二万平米ぐらい、散布地

としては八万平米ぐらい、両方合わせますれば十万平米あればい  
いということになりますけれども、各地を御視察いただいて御案  
内のように、いろいろ環境問題で地元からの要望もございすし、  
それからある意味で衛生センタのイメージを消すために、い  
ろいろな環境整備をしなければならぬと思います。その環境整  
備のためどの程度土地がいるか今後検討してみなければ的確な  
数字は出ないわけでございすけれども、そういう意味で必要最  
小限という意味がどの程度をとらえて最小限というのか非常に見  
解の分れるところだと思ひますが、私としてはこれだけはぜひほ  
しいと、特に地主さんとの折衝の過程で、やはり一部残されては  
困るというよりな問題を当然出てくると思ひますので、全部取得  
させていたきたいと、そんなふうに考へているわけでございま  
す。

それから、放流の件でございすが、これも実は一日も早く結  
論を出したいところでございすけれども、やはり今度の土地の  
選定につきましてもいろいろ長い時間がかかりましたし、相手の  
あることでございすので、いつを目安にと言われても、目安が  
立たないわけでございす。そういうことで、やむを得ず散布も  
しなければならぬときもあるんではないかということで実は考  
えております。話し合ひに無理のないような、じっくり時間をか  
けていきたい。こんなふうに考へているわけでございす。

それから、採用にあつて、五所川原の場合に契約の教値と実  
際の教値の間に差があるんではないかということについての御質  
問でございすが、確かにこの間御答弁申し上げましたように、  
契約の保証値と実際の教値に差があるということは、これは望ま

しいことではないし、適当なことではありませんけれども、実際の出た数値そのものが、われわれが要望しております数値と近いというよりも、はるかにそれより、よい数値でございます。

その契約と実際の数値の差それは許容できる範囲だというふうな考え方を持っておりますので、採用に踏み切ったわけでございます。

○教育長（安田豊作君） この有線を切ることによつて、他に教育以外に波及する点はないかということでございます。この点、答弁漏れて申しわけありませんでしたが、予算としてはほとんど同額の予算が教育放送費の中で備品費として組まれておりますので、その点は影響はないと思います。

ただ、この切ることによつて一番関心を持つて困るといふのは電電公社でございます。これに対しては局長及びせんだつでも東京から電波監理局長ですか、来まして、近く本社へ私行つてわけを話して了解を得る。いままでも好意を持つてやつていただきましたから、礼を尽してまいりたいと思います。

○一四番（石井輝久君） これで終わりますから、もうしばらく。

衛生センタリのごとですが、面積につきましても市長おつじやることわからないわけではありませんが、しかつめらしく言おうとするならば、必要面積絶対これだけ必要だという面積と、買おうとする面積を比べると二万三千平方メートル程度の誤差があつて、その誤差は不要不急の財産の取得にあたりやしないかというふうな言い方もできませんけれども、なるほどいろんなイメージの問題とか、取得しておけば多目的になんか利用する方法もあるうかと思ひますから、それに相手の地主との折衝のプロセスといひ

ますか、過程でいろいろあるうかと思ひますので、この点は質問をこの程度で打ち切ります。

それから、次の契約の数値と実際稼働している数値との相違をただいま市長は許容範囲内の誤差くらいだというふうなお答えでございますが、ところが館山が求めているのは国の基準、県の基準よりはるかに厳しい数値を求めているわけです。それはいろいろデータ等でご存じでしょうから、一々数値をあげて申しませんけれども、はるかに県より厳しい、国より厳しい環境基準といひますか、数値を求めているわけです。五所川原でやつている数値が違ふから、たぶん館山では大丈夫だろうという、私はそういう安易な考え方はどうしてもできないんです。

これは化学ですから、公害とか、いまイタイイタイ病にしても、水俣病にしても、非常に不思議な現象が次から次に起こつてゐる。しかしそれは学会は、決して原因者は企業にはない。こういう否定をしていくわけです。つまりイタイイタイ病にしても、水俣病にしても、発生源はそれを水に流すカドミウムとか、水銀とかそういうのが理由でなくて、別の原因、不明の原因からそういう事態が起こつてゐると長い間説明するんです。しかしいまそれがくずれてゐるんです。くずされて次から次に有罪判決が出てゐる。しかも私が通告したときの屋間のテレビでも、四日市で耳の關係でやつぱり公害として公害罪を適用されてゐる。判決が出てゐるんです。長い間、蓄積されてきておりますので、私はこれをすぐ短絡に結びつけるといふんではないんです。契約した数値と実際の数値が合わないことから、これを大丈夫だと市民に対してどうしても言えない。しかしこれは時間もたちますので、ただ申し

上げるだけにとどめておきます。

それから、千五百万の要するにケープルの、これは内訳わかります。その点に関する質問は打ち切つたんですから。

私が言いました教育以外の市民生活に波及するところはないかというの、私が聞き及んでいるのは、同僚の一三番議員もおられますけれども、この間、質問ではなくて発言だけにどめましてたけれども、九重の江田、広瀬、龜ヶ原の一部は三芳局番なんです。館山市民でありながら、いままさに二局、三局、七局、八局というように、三芳局番でなくて、館山市内番に切りかえようとして前進してきたわけです。

ところが、このことが原因となつてかどうか知りませんが、どうも実現が速のいたことを仄聞しているんです。とするとこの千五百万の契約を打ち切るによつて、その地区の住民、市民生活に重大かどうかかわりませんが、波及していくということとを、こういうことを申し上げざるを得ない。これは教育外ですから別の方ですけれども、これは市民生活に波及していくことは事実のように感じられますけれども、それは私の感じだけでございましょうか。それとも事実そのように波及していくんでありましょうかというのを再質問いたします。簡単に結構です。

○市長（半沢良一君） そのことはただいま初めて承りましたので、どうも御答弁がなかなかしづらいのでありますが、もしそういう事実があるようでしたら、調査いたしましたして極力局番変更実現できるように努力いたします。

○一四番（石井輝久君） 以上をもつて終ります。

市長の最後の御答弁、事実を知らなかつたようでございますが、

あつたら前向きに検討されるということでございますので、早急に御検討をさしまして、しかるべく手を講じていただきたい。要望いたしましたして打ち切ります。

終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一四番議員君の質疑を終わります。

以上で、通告者による質疑は終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

#### 予算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となつております昭和五十四年度各会計予算については、十人の委員をもつて構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにしたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、決しました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました予算審査特別委員会の委員の選任につきましては、委員会条例第四条の第一項の規定により、

一 番議員	流山源次郎君	一 三 番議員	林 豊君
一 五 番議員	辻田 実君	一 六 番議員	安西 益男君
一 九 番議員	渡辺 昭夫君	二 三 番議員	菊井 敏博君
二 六 番議員	藤田 益治君	二 七 番議員	遠山ヨネ子君



二八番議員 石井 正君 三〇番議員 山口 康君  
以上、十人を指名いたします。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

よつて、ただいま指名いたしました十人の諸君を予算審査特別委員会の委員に選任することに決しました。

ただいま、選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、のちほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後四時五十分延会

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

よつて、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明三月十三日から二十二日まで委員会議案審査のため休会、次会は三月二十三日午前十時開会いたします。

その議事は、議案第一号ないし議案第二十五号にかかわる各委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第一号ないし議案第七号

一、予算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

